

「米百俵プレイス ミライエ長岡」と名付けられた
人づくり・産業振興を目指す長岡市施設と、
第四北越銀行施設が一体化した複合体（2023年7月
西館一部が先行オープン）（長岡市分は現代版国漢学校、互尊文庫）



長岡ボランティアガイドの会の毎月例会の研修の一環で見学させてもらい、
長岡がアート、デザイン、グラフィックスに溢れる街だと、改めて感じました。
もし春日が、ミライエを含む町なかをガイドさせてもらえるなら、こんな話を
随所にちりばめながら、ということで、まとめました。

目次	----- P1
0. ダイジェスト	
1. ミライエ研修の説明メモと補足（2024年01月25日）	----- P4
2. ミライエのピクトグラムほか、町なかのアート説明	----- P6
(1) 廣村正彰さんのミライエ ピクトグラム	
(2) 長岡造形大遠藤良太郎教授の大作 大きなガラスの絵	
(3) 東館に掲示予定の「大智浄光」の作品名の由来について	
(4) 長岡の有力商人の芸術家支援活動	
(5) 長岡の最初のストリートピアノ、摂田屋米蔵のシュベスターピアノ	
3. ミライエ、町なかのガイドコース案	----- P13
(1) 概要と教育の系譜コース例	
(2) ガイド話題の内容説明は 4章に一括	
4. 産業振興・教育の系譜・アート 町なかガイドの話題メモ	----- P15-36
産業振興関連話題	(もし春日がガイドさせてもらえるなら)
教育の系譜に関連する話題	
ミライエ、及び長岡のグラフィックアート関連話題	
彫塑家 武石弘三郎関連の覚え書き	
武石弘三郎作、武石貞松と堀口久萬一の「友情の双像」、骨太の大學	
藩校崇徳館、藩主殿町別邸、明治の漢学塾誠意塾、	
関妃暗殺事件、高橋竹之介年譜、	
金禄公債とは（きんろくこうさい）、ほか	

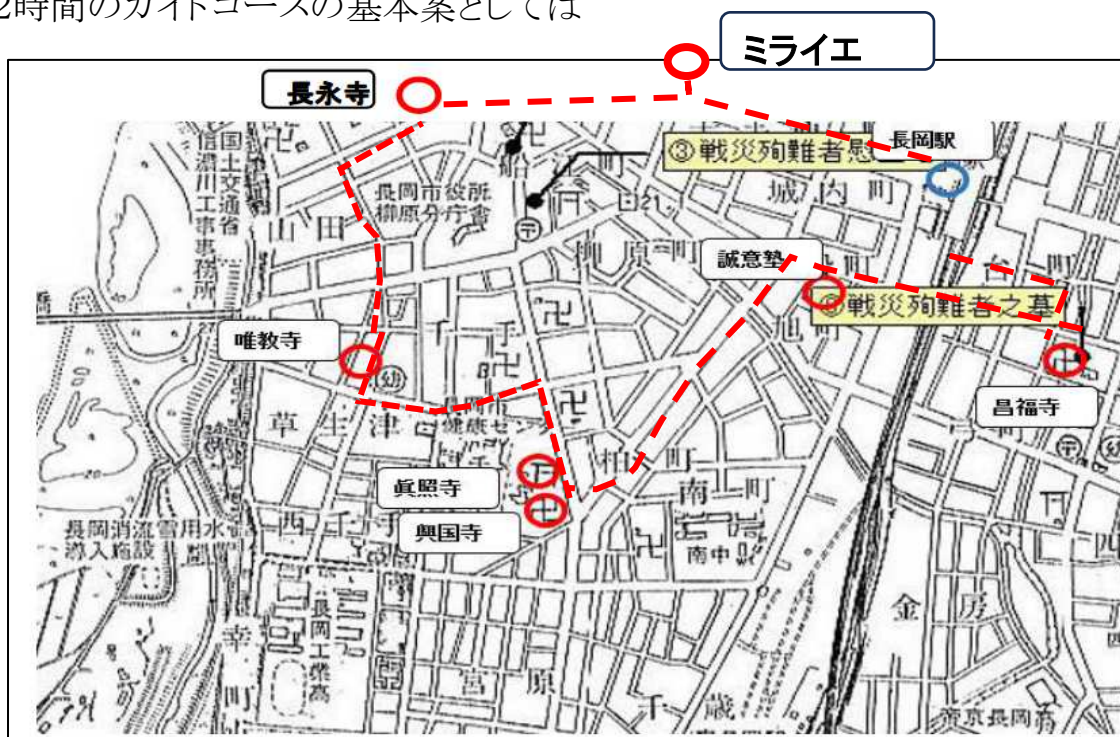
ダイジェスト ～2頁にまとめました

(C)春日正利

ミライエ、町なかのガイドコース案 --- 概要と教育の系譜コース例

長岡は、明治以降、教育や芸術に理解を示す産業人・商人の貢献により、関連話題の尽きないです。そこにミライエの話題が新たに加わりました。

話したいことが多くありすぎ、困ってしまいますが、ガイドごとにテーマを絞ってお話したいです。まずはミライエの「多くの人に新しいアートに関する」話題、そして米百俵プレイスならではの「教育の系譜」の話題を入れたいです。(詳細は4章の資料、20頁余りに関心事を集約)
ガイド時間は2時間を基本とし、一部省略などで、1時間も可能と思います。
2時間のガイドコースの基本案としては



昌福寺 (明治2年の国漢学校仮校舎跡) 長岡駅東口から500m

(東口を東に進み、福島江を過ぎて、阪之上小を左に右折、昌福寺へ)

誠意塾跡 (高橋竹之介開塾の漢学塾跡、長命堂飴舗) ～550m

崇徳館 (都講の秋山景山、戊辰のメンバー) ～100m

追廻橋 種田山頭火が初代互尊文庫を詠んだ句碑。必須の紹介

興国寺 (小林虎三郎関連) ～誠意塾跡から 700m

千手 八幡神社 (牛久保・三つ葉柏由来の神社より牧野氏勧請)～50m

真照寺 (高橋竹之介関連) ～250m

唯敬寺 (星野嘉保子復元像、西園寺公望の碑文原本の書) ～600m

(事前に住職様に依頼し、本堂の公望の書と添書き拝観をお勧めします)

長永寺 (木曾恵禅、星野嘉保子、野本恭八郎) ～1000m

西福寺 (岸宇吉ら岸家のお墓、新政府軍からの名称でしょうが維新の暁鐘)

(柿川対岸の北側に、明治・大正期の製油所群がありました)

ミライエ (明治5年の国漢学校跡) ～400m、長岡駅大手口へは更に500m

長岡駅東口---長岡駅大手口で、歩く総距離は、概略 4,650m です。

この範囲を、2時間で散策します。ここから取捨選択して、いろいろな時間やコースを工夫できると考えます。

ミライエ、長岡に関連する殖産興業、教育の系譜、グラフィックアート関連人物として、ガイドで取り上げたい人々を、3章に掲げましたが、殖産興業、教育の系譜の関連では、銀行、石油、鉄道を中心として、三島億二郎の周辺の人物の話にしたいと思います。これらの人物には彫塑家武石弘三郎の作像も多く、作成のトピックスを横糸に使います。アートの関連では、斎藤義重さん、亀倉雄策さん、ミライエ・ピクトグラムの廣村正彰さん、大ガラス絵の長岡造形大・遠藤良太郎先生、長岡造形大の初代学長で摂田屋町おこしでも尽力された豊口協先生、そして摂田屋のポスター美術館創始者の秋山孝先生をあげ、ミライエならではのストーリーを、いくつか作成したいと思います。

ストーリー1 藩校・国漢学校、長岡洋学校、誠意塾、女学校、実学校など、多様な学校創立の背景、創立に関わった人々の話。
その人たちのつながりも、すばらしい話です。

ストーリー2 武石弘三郎の作像による人物を中心に、産業、学術に貢献した人々の話。

ストーリー3 長岡の町なかは、よく見ますと意外なほど、デザイン、アートに溢れています。関連した話題を中心に歩きます。
東口の多くの川上四郎童画モニュメント、信濃川左岸・ハイブ長岡近くの「米百俵の群像」、日赤病院近くの三島億二郎像を含めたお話です。

ストーリー4 長岡の町なかでも、戦災でも消えなかった江戸以降の歴史を語ることは可能です。見えない歴史ですが。
近代都市長岡の痕跡、石油産業都市長岡の痕跡も、お話しできます。

1. ミライエ研修の説明メモと補足 (2024年01月25日) (記)春日正利

(1) アート関連の話

ミライエのマーク ピクトグラムは、2020東京五輪のピクトグラム作者である

廣村正彰氏が制作 (～詳細別記 東京五輪のピクトグラム)

大きなガラスの絵は造形大の遠藤良太郎先生(美術・工芸学科 教授)の大作
長岡の風景。上が東、真ん中に信濃川。郷土史料館、闘牛、いろいろ。

(～ 制作経緯、作成方法など、長岡造形大学広報誌にあり)

「大智浄光」のモニュメントは、2028年予定のミライエテラス(東館)に展示予定。

(2) 金禄公債の使途も長岡復興のポイントのひとつ

明治5年8月、銀行条例で、武士の公債を資本に国立銀行設立を許可
することになった。これが、各地に国立銀行が設立された由縁。

新潟県内にできた国立銀行は、全部で5行。 1873(明治6年)に創立の
第四国立銀行は、市島など蒲原の豪農、回船問屋が中心。 それに対して、
ほかの四行の、長岡第六十九、村上第七十一、新発田第百十六、
高田第百三十九は、いづれも城下町である。 士族の救済。(4章に補足)
長岡第六十九は、雄七郎、そして当時大蔵省に仕えていた外山脩造の
アドバイスも、有効だったようだ。

旧武士の金禄公債を資金に設立したが、10万円集めるのに自力では
3万円と苦心し、さらに六十九銀行は、新政府軍に逆らったという心象が強く、
資本だけでは政府の許可が出なかった。 明治11年(1878)、周辺の地主
らの有力者を初代二代の頭取として前面に出し、ようやく認可された。
～このころの億二郎の気持ちは、如何ばかりかと推察します。

初代頭取 関矢孫左衛門(*補足) 北魚沼・並柳の地主、事業家
戊辰では居士隊で新政府軍に協力。衆議院議員。私財を投じて学校、北海
道開拓に尽力。関矢孫左衛門が1879、北魚沼郡長となり、退任。

二代頭取 (1879)山田権左衛門 三島郡七日市の地主。1873、眼病の為
上京。 その後は宇吉、遠藤亀太郎(三島郡藤橋村の地主。

長生橋経営の継承など、商工業に尽力)が頭取代理。

明治25年 石油、480社の過半が古志郡 1878年(明治11年)六十九銀行

明治29年 長岡銀行 もう一行、あってもいいのでは。 山口権三郎が尽力。

初代頭取 山口権三郎、二代頭取 山口達太郎、三代頭取 山口誠太郎
大塚益郎(マスロウ、山口権三郎の弟)も、活躍。積極的な貸し出しで、
六十九銀行を抜くこともあったが、その後、金融恐慌で苦戦。

大正5年 六十九銀行にレンガ造りの本店

大正9年 から銀行冬の時代。

昭和17 六十九銀行、長岡銀行が合併

(3)長岡の復興とランプ会 ～ 宇吉 16才で商売に成功。会では30才超。第四北越前身銀行のあゆみについては、ミュージアム内に設置のビデオ 三本計8分により、長岡の事情、三島億二郎、六十九銀行の歴史概要を説明。ガイドのときには、お客に、これをはじめに見てもらうのがお勧め。

ランプ会 宇吉、修三、億二郎が中心に奔走。士族、商人、農民、僧侶、教師らの大合同は、全国的にも稀。 ～ ほかの事例は?。展示しているランプは、往時のランプの雰囲気のように小樽の北一ガラス工房に製作依頼。



(4)施設

互尊文庫、物作り支援、ほかの施設
指導付き3Dプリンタ使用、会議室
など市民向け設備も素晴らしい。
かすかに聞こえるBGMもオリジナル。
中央図書館でも、BGM が流れる。



ストリート・ピアノ

ミライエの1階に、大きなグランドピアノがドーンッと置かれていた。

屋内歩道部の音響がよく、市民の自由演奏もひきをきらず、大好評とのこと。見学時も名演奏の最中。ピアノは市民の寄付によるそうです。テレビでストリートピアノの映像が流れるたび、そんな街を、いいなと思っていた。ところが、大都市の公共空間のみと思っていたのに、2024年1月現在、国内で600台を超え、台数の多さに驚きです。新潟県も、17台あるそう。長岡は、ミライエのYAMAHA C3、摂田屋米蔵のシュベスターの2台。

蔵書数は 40,000冊。

三階の一般書で、35,000冊。 他にビジネス関連書で、5,000冊。

所蔵して半年は館外貸出不可とする。 館外貸し出しはまもなく開始予定。

貸し出しカードは市立図書館共通。建設費用は、長岡市のエリア分で、35億円。内訳は建設費で26億円、そのほかは書籍を含む備品。

ちなみにネットによると、長岡市立中央図書館全体で 90万2千冊・点。そして長岡市立南地域図書館の蔵書数は 8万3千冊 (2017年時点)。かつて1918年(大正7年)開館時の蔵書数は30,708冊だったそうで、1936年(昭和11年)の全国主要市立図書館の統計では、閲覧者率が全国1位、蔵書冊数が全国2位。

2. ミライエのピクトグラムほか、町なかのアート説明

(C)春日正利

(1) 廣村正彰さんのミライエ ピクトグラム

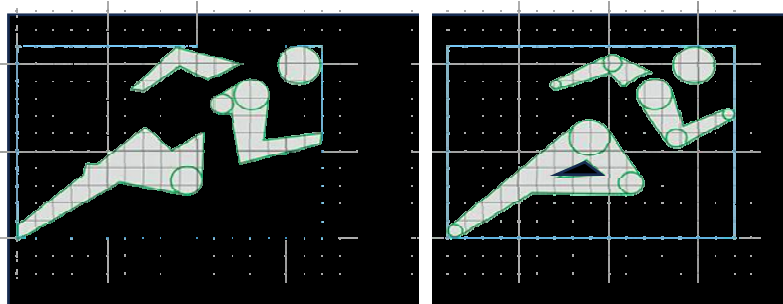
～ 調べたら、以下のように興味深い。上手にPRしたい。



互尊文庫
GOSON BUNKO

廣村正彰事務所の
ホームページより

2020東京五輪、廣村正彰さんのピクトグラム



ネットでいろいろな競技の
ピクトグラム比較表がみつ
かります。今回のよさととも
に前回の狙いもなんとなく
わかりました。

1964東京五輪のピクトグラム
版画家の原田維夫(つなお)氏
初のピクトグラム使用

2020東京五輪のピクトグラム
廣村正彰さんが制作
以下は、廣村正彰さんの言葉です。

『各ピクトグラムは、組織委員会やIOCに加え、各競技団体にもチェック
していただいています。競技団体には「この手の角度が少し違う」とか
「足の踏み込む位置がこう」とか、種目ごとの最高に美しい瞬間について
多くのアドバイスをいただきました。我々には計り知れないこだわりがある
んですよね。その細かな微調整が幾度も幾度も続きました。
でも、そのコメントに基づいてデザインを直すと、やはりものすごくよくなる。
プロの目線に感服しましたし、多くの方の力を借りて作り上げたという実感も
大きいです。』～ いい話です。

廣村正彰さん グラフィックデザイナー

1954年愛知県生まれ。田中一光デザイン室を経て、1988年独立。 グラフィックデザイン
を中心に、美術館や商業、教育施設などのCI、VI計画が主な仕事。建築作品には横須賀
美術館、東京ステーションギャラリー、アーティゾン美術館、台中国立歌劇院の設計、
そごう・西武、ロフトの監修など。

主な受賞歴:毎日デザイン賞、KU/KAN賞、SDA大賞、グッドデザイン金賞他。

～ グラフィックデザインの最高峰の亀倉さんのモニュメントを有する長岡に、
隈さんのアオーレに次ぐ、一階に本作品、そしてミライエそのもののいう、相応し
いデザインが増えました。さらに東館完成のときには斎藤義重さんの大きな作
品が再登場します。こんなデザインの名作が溢れる街がありますでしょうか。

(2) 大きなガラスの絵 造形大 遠藤良太郎先生の大作
「倣池大雅光楽図／わたしたちと共にある風景」

長岡の風景。上が東、真ん中に信濃川。郷土史料館、闘牛、いろいろ。俯瞰図である。

(～ 制作経緯、作成方法など、大学広報誌にあり。以下は、その中の文より抜粋したもの。)

本制作プロジェクトは、設計段階から計画されたものではなく、ある条件が『本制作プロジェクトは、設計段階から計画されたものではなく、ある条件が既にあるという状態に後付け的に発生したもの。』

『大手通と直行する道の角に面し、外からガラス越しに見える3階へ直行するエスカレータ横である。エスカレータの傾斜の下三角部分が壁面、上三角部分はガラスという高さ約6m 横幅約12m の矩形の中を斜めに2 分する線が入り、さらにガラス板の規格に合わせたサンが縦横に入る。加えて防災上ガラスには格子状にワイヤーが入っているという賑やかな条件である。』

『制作、施工、設置については以下の点を検討した。
まずオーソドクスな画家の制作として考えるのなら直接壁面、ガラス面に描くというのが最もシンプルなものと言えるだろう。現代の描画材料はガラス面を含め建築に用いられる一般的な材料に対応する製品があり、耐久性等の機能もある程度確保できる。一方で現場は足場の設置が必須であること、描画を自分一人もしくはアシスタントと共に描く仕事量に対しての十分な時間の確保は困難であること、壁面下部に人が触れる可能性があり長期的メンテナンス、維持管理等も必要であることなどから業者による制作、施工、設置という判断となった。これら諸々の条件と私の描画スタイルの一つであるデジタルによる方法を用いるということが合わり、下絵を私が作成し、それを業者と共に設置する方法を考え、現物の製作、設置を業者によって進めようとなったのである。』(～ 遠藤先生には、大変だったと思われる。)

～ 倣王摩詰漁楽図 のように、池大雅には、倣・・・とした絵がある。

重文 縦149.5cm 横53.8cm 江戸時代・18世紀 京都国立博物館
そうした錯覚を生み出す 要因であろう。大雅40歳頃の作
款記「倣王摩詰」が意味するものは、画法の典拠ではなく、池大雅(1723～76)
が生涯敬愛した唐の詩人画家、王維の「声無き詩」への遥かな思慕だろう。
日本南画の大成者であり、光への鋭敏な感覚をしめした
大雅40歳代の傑作として忘れられない。 という説明が、ネットにありました。

(3) 東館に掲示予定の「大智浄光」の作品名の由来について (C)春日正利
ガイド資料のMfG_J_Niigata_Prefectural_Museum_Collection_detail より

1) その一

長岡市中心部にあった長岡現代美術館のシンボル、巨大な銅製のレリーフ「大智浄光」という作品名の由来についてです。

正信念佛偈という、浄土真宗の開祖・親鸞上人が著した主著「顕浄土真実教行証文類」、略して「教行信証」の中の偈文で、浄土真宗の門信徒にとって、最もなじみ深い経文があります。

正信念佛偈をただ読んだだけでは「浄光」の語句は出てこないのですが、よく詠み込むと「大智」も「浄光」も、正信偈の中の言葉なのだと、気づきました。



新潟県立近代美術館で開催された、2020年の一月下旬からの『「1964年」の長岡現代美術館』企画展の展示コーナーで、作者の斎藤義重さんの言葉がありました。

“各々異なった動きと表情をもつ住人”を表わしたという。恐らく、浄土ではない、この世、穢土の住人なのだろう。その住人が希求する浄土の「大智浄光」の四文字の各々について、思いをめぐらしたのかも知れない。

この「大智浄光」のレリーフは、長岡市中心部の再開発工事のため、2020年の春に建物から外されましたが、改めて、この場所に新たにできる米百俵プレイスの二棟連結部に展示されるそうです。

2) その二

たまたま駒形十吉さんの年譜を調べていましたら、大光銀行の名称のもと、観音経の一節「廣大智慧観 無垢清浄光」に由来するとの記述を見つけました。『観音経』は法華経のなかの「観世音菩薩普門品第二十五」という一章で、

『観音経』の一部の抜き書き

真観清浄観 廣大智慧観 悲観及慈観 常願常瞻仰

無垢清浄光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間

曹洞宗經典には、曹洞宗の宗典「修証義」、日常よく使う「般若心経」、「観音経」などが収められています。

「観音経」は、妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈のこと。

また、駒形十吉さんの年譜に、以下の二行があります。
1935 (昭10) 兄宇多七の死去により、堅正寺支援も継承。
1942 (昭17)「大光無尽」と社名変更

これより、以下、私の推察です。
観音経の一節と大智浄光、そして大光の文字については、
堅正寺住職との対話、堅正寺での勤行で「大智浄光」を知り、この
最初と最後の文字として「大光」と考えたのかも知れません。
そして現代美術館建設に伴い、前庭の美術作品のテーマを考えたとき、
この「大智浄光」を選んだと考えます。

「正信念佛偈の、光あふれる阿弥陀様」は、駒形十吉さんが育った
家で流れていた言葉としても、相応しいと思わざるを得ません。

(4)長岡の有力商人の芸術家支援活動

(C)春日正利

1960年代に日本最初の現代美術館を有し、その遺産を一部にもつ県立近代美術館と、ごく一部残った国内外の現代アートの名品、さらに平山さん、加山さんの現代日本画の大作を所蔵する駒形十吉記念美術館の2館。あるのが当然のようなアートが長岡にある。その原点は、誰も言いませんが、本節のように「長岡の有力商人の芸術家支援活動」にあると、密かに思っています。江戸、明治以来の長岡商人の芸術家支援についても、是非知っていただくと、手持ちの資料の一部を掲載しました。

初期の院展作家を支えた財界人は、製糸、生糸貿易で活躍した横浜の実業家・原三溪ほか、多くの方がおられたが、明治期以降の長岡商人も含まれる、という、あきり知られていない事実です。これがあって、駒形十吉さんの芸術文化活動があったと思わざるを得ません。

- 1) 以下、詳細は、MfG_J_Genealogy_of_art_around_Nagaoka.pdf より抜粋
 長岡、新潟のアートの系譜
 コレクター駒形十吉と、大光コレクション、駒形十吉記念美術館

江戸期、明治期の長岡は、芸術に恵まれた位置にあった

江戸期には、長岡は譜代大名牧野氏の城下町として、また信濃川、三国街道を中心とした交通の要衝として、大いに栄えた。特に江戸後期、越路長谷川邸の谷文晁らの画帖などに見られるように、各地からの文人墨客を歓待する伝統が定着していたと思われます。

摂田屋でも、星野本店土蔵の入り口扉の書、サフラン酒の圧倒的な教養など、恐らくは、長永寺の木曾恵禅ほか、当地に長逗留した文人が当主らと語らっての講話などがベースになっていると思っています。

駒形十吉氏が収集した美術品を中心とした美術展図録ほかから、引用

「長岡現代美術館賞」回顧展 1964-1968

「駒形十吉ノート」駒形氏と美術 小見秀男氏

越後長岡は牧野家7万4千石の城下町であった。

長岡藩は町の東側を流れる信濃川の通船権を独占しており米を中心とした物資の集散地として長岡城下では商業活動が盛んに営まれていた。城下町や商人町の常としての文化への懐の探さを長岡も持ち合わせていたようで、昔からの芸術愛好の伝統的気風は駒形氏が生まれた明治後期になっても町人の間に確かに受け継がれていたようである。その現れのひとつが、明治31年頃、創設された日本美術院に対する井口庄蔵を中心にした長岡商人のパトロネージであり、以来下村観山、木村武山などの院展画家たちが相携えて長岡を頻繁に訪れるようになった。

明治以降も長岡の文人たちは各種文化サークルを作り活動していた。
それが駒形十吉氏の芸術活動に結実したとも云える。

駒形氏の兄の二代宇多七も長岡知識人の中心的人物で、早くから長岡の隣町与板出身の日本画家三輪晃勢のパトロンとなり、一方で横山大観、菱田春草らに傾倒してしばしば自宅に招いたという。更に血筋には父方の伯父で江戸で南画を習った人もいた。

駒形氏の周辺には美術に親しむ豊かな環境が整えられていたのである。

昭和9、10年頃長岡に駒形氏も参加した美術愛好グループ「風羅会」が結成された。風羅とは土地の言葉で相手に対して親愛の情を寵めての「馬鹿」という時に使う言葉なのだが、駒形氏の回想に依れば羅(うすもの)でフラフラと風に吹かれる輩の集まりの意味だったと言う。自嘲と言うよりもむしろメンバーの美術馬鹿たらんとした気概、矜持からの命名であろう。他に井口庄蔵(先の院展パトロンの次代の人)、松本喜之七酒井由郎、内山弥七の4人が会員だった。研究のため京都、奈良の古社寺、名園をほとんど巡ったという。

一方では高村光雲(木彫)、板谷波山(陶)、堆朱陽成(漆工)、飯塚琅汗斎(竹芸)、北原千鹿(彫金)、楠部彌弑(陶)たちを後援し、集まった作品を一般に公開したりした。パトロン、コレクターとしての美術修行が「風羅会」によって始まったのである。ただ、駒形氏が若い頃から本当に魅了されていたのは村上華岳と言われ、彼の作品はもとより、その求道的な作画姿勢は若き日に一灯園に心惹かれた駒形氏の内面に強く訴えて敬愛の念は終生保持された。

風羅会での活動等を通して、当初は日本画や工芸を中心に収集していた駒形十吉は、戦後、銀行経営が軌道に乗り始めてからは日本近代洋画や国内外の同時代美術のコレクションへと向かうことになる。

新潟県の全体としても、明治期、院展画家集団を作品購入で支えたという。

明治、有力商人は院展画家集団を作品購入で支えた。

妙高滞在の横山大観、良寛研究家でもあった安田鞞彦、

高田出身の小林古径 という、三人の引力も大きかった。

明治期の長岡には院展の作家を援助する、先代井口庄蔵らの人たちがいた。

(この先代庄蔵は、のちの風捷会の一人、井口庄蔵の父)

更に、昭和9年頃、美術商 松木氏、そしてそれに賛同した駒形十吉ら四人の、いずれも三十五歳前後の、裕福な商家の若きリーダ、その中の同好の士の集まりが美術品の収集と画家の支援に活動していたたそうです。(駒形十吉記念美術館・資料)

そして、これらのメセナに通じる活動が、新潟の二人の昭和のコレクターの活動の下地にあったと思われます。その二人とは、駒形十吉さんと新潟市敦井美術館の敦井栄吉さん。

2) 長岡現代美術館の思い出 館長のあいさつ

館長の挨拶 （長岡現代美術館所蔵品カタログより）
長岡現代美術館

日本民族は、鋭敏なそして豊かな感覚と、洗練された技術で、世界に冠絶した伝統ある美術文化を、つくりあげました。明治に入って、新しく西欧から洋画が伝えられ、それまで日本になかったリアリズムの世界を展開しますが、今日までの一世紀にも満たない間に、世界のレベルに達して、その重要な役割を果たすに至っております。

長岡現代美術館は、この日本の現代美術が、今日の世界美術の中において、どのように位置しておるかを、各国の美術と比較しながら示すと共に、近代において、それが如何に展開して来たかを、明らかにしようとするものであります。このような美術館は我が国においても数少ないものとして重要な意義をもつものと思います。

長岡現代美術館は、現代美術の推進に積極的に寄与することを念願し、この意図に沿った一つの事業として1964年の開館以来「長岡現代美術館賞」を設定して、現代美術に新風を送りこみ、更に広く国際的にも活躍し得る能力を持つと思われる内外の作家を顕彰し、同時に明日のヴィジョンの開発の原動力となることを期するものであります。

私は今後益々より一層美術館の充実を図り、教育と文化の振興に寄与すると共に、国際的にも貢献したいと深く念願している次第であります。

館長 駒形十吉

(5)長岡の最初のストリートピアノ、摂田屋米蔵のシュベスターピアノ

(C)春日正利 (2022Nov)

(1) なぜ人気のピアノの名品が米蔵に

このシュベスターピアノは、ソプラノ声楽家・中澤桂さんが所有していたものです。中澤桂さんは、長岡市出身の、日本を代表するソプラノ歌手の一人として国際的に知られた声楽家です。

その中澤さんが、長岡市芸術文化振興財団理事長時代の神林茂さんと交流があり、そのご縁で神林さんは中澤桂さんが所蔵されていたピアノの寄贈を受けたとのことです。ミライ発酵本舗(株)専務取締役となられた神林さんが、このピアノを文化活動に役立てようと、米蔵に設置しました。

(2) 中澤桂さんについて

以下は、ネットで仕入れた情報です。

中澤桂(1933 - 2016)日本の声楽家(ソプラノ)、音楽教育者。

東京二期会元会員(理事)、東京音楽大学名誉教授。

新潟県立長岡女子高等学校卒業(大手高校の前身)。

1956年(昭和31)東京芸術大学中退。

二期会研修所修了。1959年(昭和34年)長門美保歌劇団

ドヴォルザーク『ルサルカ』の日本初演において主役「ルサルカ」役

でオペラデビュー。二期会を中心に数多くのオペラで活躍。

日本オペラにおいても、清水脩『修善寺物語』の楓、三木稔『春琴抄』の鴎屋春琴などに繰り返し取り組み、とりわけ團伊玖磨『夕鶴』の、つうは当たり役で、日本を代表するソプラノ歌手の一人として国際的に知られた。

「中沢桂」と表記されることが多い。

素晴らしい活躍をされた音楽家、うれしいですね。

年に数回のナイトコンサート、ジャズフェスなど音楽発信も目指す施設、

摂田屋サフラン酒・米蔵に、なくてはならないピアノとなっています。

しかも、イベントのないとき、このピアノ好きなら垂涎のピアノを、許可をいただけたら自由に弾けるとのこと。

こんな話も、摂田屋の誇りです。

尚このアップライトピアノは、

中澤さんが1952年、長岡大手高校を卒業し東京芸大を受験された当時、ご実家で使用されたものだそうです。

以上



(中澤さんの後を追いかけるように、世界に羽ばたいている長岡生まれの音楽家、最近、多いですね。)

3. ミライエ、町なかのガイドコース案

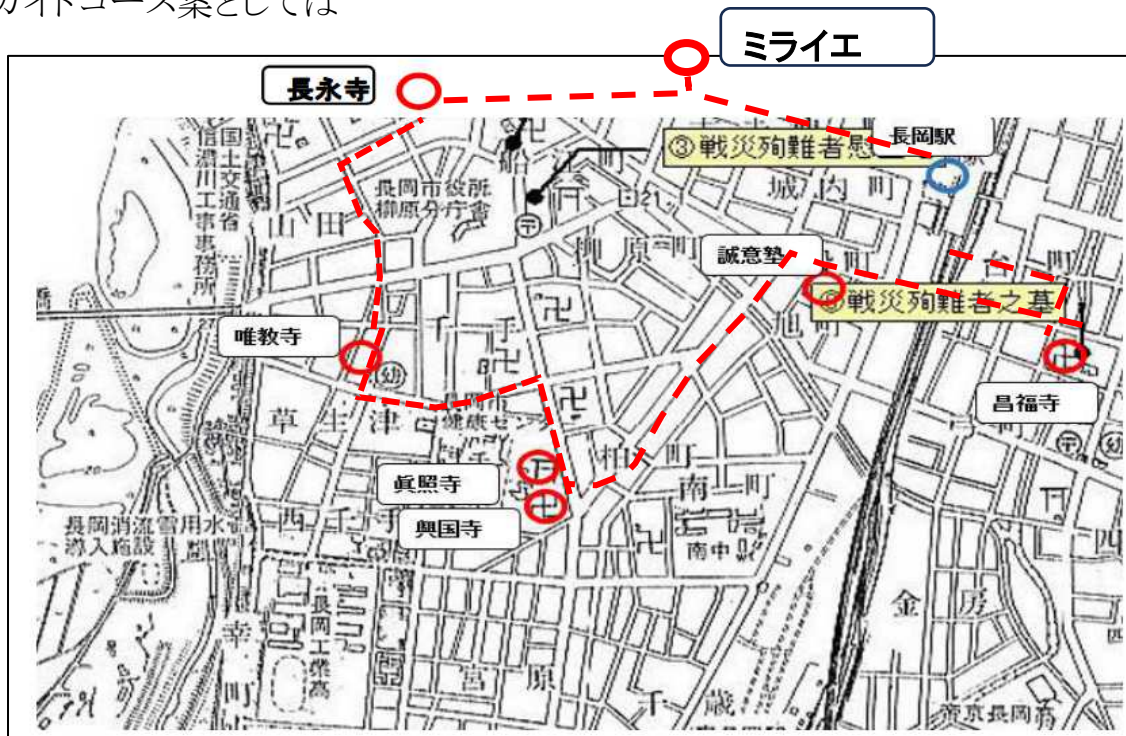
(C)春日正利

(1) 概要と教育の系譜コース例

ミライエを観光ガイドコースに加える場合、話題が豊富なため、テーマを何にするかがポイントと考えます。

まずはミライエの「多くの人にとって新しい、アートに関する」話題、そして米百俵プレイスならではの「教育の系譜」の話題を入れたいです。

これを詳細にお話しするのではなく、長岡の他の観光拠点の関連する話題、それ自体も関心のあるゲストが多いと思うので、それと一緒に、ゲストの関心を見ながら話すことで、必ず喜んでいただけると考えます。ガイドコース案としては



昌福寺 (明治2年の国漢学校仮校舎跡) 長岡駅東口から500m

(東口を東に進み、福島江を過ぎて、阪之上小を左に右折、昌福寺へ)

誠意塾跡 (高橋竹之介開塾の漢学塾跡、長命堂飴舗) ~550m

崇徳館 (都講の秋山景山、戊辰のメンバー) ~100m

追廻橋 種田山頭火が初代互尊文庫を詠んだ句碑。必須の紹介

興国寺 (小林虎三郎関連) ~誠意塾跡から 700m

千手 八幡神社 (牛久保・三つ葉柏由来の神社より牧野氏勧請) ~50m

眞照寺 (高橋竹之介関連) ~250m

唯敬寺 (星野嘉保子復元像、西園寺公望の碑文原本の書) ~600m

(事前に住職様に依頼し、本堂の公望の書と添書き拝観をお勧めします)

長永寺 (木曾恵禅、星野嘉保子、野本恭八郎) ~1000m

西福寺 (岸宇吉ら岸家のお墓、新政府軍からの名称でしょうが維新の暁鐘)

(柿川対岸の北側に、明治・大正期の製油所群がありました)

ミライエ (明治5年の国漢学校跡) ~400m、長岡駅大手口へは更に500m

長岡駅東口---長岡駅大手口で、歩く総距離は、概略 4,650m です。

(2) ガイド話題の内容説明は 4章に一括

4 章に、観光ガイドコースの話題として、長岡の産業振興、教育の系譜、ミライエ及び長岡のグラフィックアート関連の三つにつき、整理しました。もし私がガイドするなら、という、話題の範囲限定です。教育関連の人物図をもとに、4・6kmの徒歩距離のガイドコースを考えました。ここから取捨選択して、1時間コース、2時間コースなどを工夫できると考えます。

① 三島億二郎関連コースは、信濃川左岸の長岡赤十字病院と銅像から話をはじめて、億二郎関連人物と教育関連寺院などを訪ねるコース。億二郎のほか、江戸末期から明治の長岡を中心とした教育、そして殖産興業関連の人物に関連する場所も、大半が町なかにあるので、魅力的なコースになりえます。興味あるストーリーに仕立てることができると思います。

②グラフィックデザイン・関連コースは、ミライエに出てくる人物のほか、長岡市のグラフィックデザイン・アートの人物が大勢います。おもしろいストーリーのある観光コースができると思います。

①、②の町なかガイドでは、長岡・中之島出身の、明治末から大正昭和の彫塑家の第一人者、武石弘三郎作品に関連する人物を中心に考えています。

4章に一括でまとめた観光ガイドコースの話題素材は、下表の項目です。説明は簡単にしましたが、これだけでも頁数が多くなりました。更に詳細な内容は、サフラン酒ホームページの中にありますので、サイト内検索の機能で探し、確認下さい。

産業振興関連話題	教育の系譜関連話題
岸宇吉(1839- 1910)	三島億二郎(1825-1892) ○ ●
関矢孫左衛門 ○	1. 教育関連の億二郎関連人物図
山口権三郎 (1838-1902) ○	2. 江戸から昭和初期の長岡の教育の年代図
山田又七 (1855-1917) ○	木曾恵禅 (1817-1896) ○ ●
久須美秀三郎 (1850-1928) ○	互尊翁野本恭八郎 (1852-1936) ○
田村文四郎 (1870-1917) ○	秋山景山 (1758-1839) ○ ●
駒形十吉 (芸術家支援も) ○	竹山屯(1840-1918) ○
ミライエ及び長岡のアート関連話題	高橋竹之介(1842-1909) ○
斎藤義重よししげ 1904 - 2001) ○	西園寺公望 (1849-1940) ○
亀倉雄策(1915 - 1997) ○	橋本禅巖(1899-1994) (山本五十六関連) ○ ●
豊口協(1933) ○ ●	星野嘉保子 (1847-1904) ○
秋山孝(1952-2022) ○ ●	
武石弘三郎 (1877年-1963年)○	○ 文中に概説有り ● 摂田屋にも話題
堀口大學(1892-1981) 詩○	軸としてお話し

ご案内できるコース

ガイドの会の定番コース

- (1) 河井継之助記念館、山本五十六記念館と栄涼寺、長興寺コース
- (2) 昌福寺、平潟神社、平和の森公園等を周遊する戦災史跡コース
- (3) 阪之上小学校伝統館、長岡高校記念資料館を中心としたコース

特別コース（特に市内、県内にお住いのゲスト向け）

(4) 町なか教育の系譜コース案

江戸期の藩校、寺院私塾、明治期の私立学校、漢学塾など、さまざまな学校がありました。それらの関連人物を偲びながらの散策です。

(5) 町なか石油産業コース案

柿川沿い中島の往時の製油所跡、戦災前の西神田～石内にありました新潟鐵工所長岡分工場、長岡鉄工所組合跡を偲んで歩くオイルシティの痕跡コースです。およそ3,400mになります。

さらに、明治・大正期の石油、現在の天然ガスの長岡の地下資源の話、機械工業をはじめ長岡の第二次産業の栄枯盛衰に関する話。

(6) 町なかアート、グラフィックアートに特化したコース案

これも、ミライエ・米百俵プレイス関連の話題を含め、美術好きの方でしたら、アート満載の町・長岡を再認識する、なかなかおもしろいコースだと思います。

(1),(2),(3)をご希望の場合も、三時間ということで、いろいろな追加が可能。

(1)の場合、道中で、下記のような話も、させていただこうと思います。

① 十九世紀、グローバルヒストリーの中の徳川幕府と長岡藩。

（幕府が長岡藩管理の湊・新潟召し上げ（新潟上知）は、薩摩藩の抜荷を見抜けなかった長岡藩への処罰ではなかったはずです）

② 幕末の米露欧の圧力と戊辰の役、西郷さんが長岡に来ていたら状況は変わっていたかも知れません。

（武装中立が何故、長岡で生まれたか）

③ 河井家・山本家断絶と大正になり漸く回復。

（長岡、そして会津での河井継之助、山本帯刀の評価、敬い方の違い。山本五十六の誕生。五十六の米国観。）

④ 藩是であった『常在戦場』の解釈の変遷。

（長岡藩の牧野氏は1566年に家康に謁見、徳川譜代の家来、『常在戦場』は、それ以前から幕末まで300年の間、家訓であった。）

その他

⑤ 戊辰の役敗戦と、戯曲『米百俵』の成り立ちについて

⑥ 長岡花火のテーマであります『慰霊・復興・感謝』に込められた願い

⑦ 戦前、全国有数の規模であった図書館、互尊文庫について

4. 観光ガイドコースの話題メモ (C)春日正利 (2022Nov)

本来ならば、長岡高校記念資料館、阪之上小学校伝統館のみならず、如是蔵博物館など三島億二郎に関連する資料を展示する施設を含め、包括的なコースを提案すべきかも知れませんが、大部になります。そこで、ここでは、自分でストーリーを作れる内容を中心に、気軽な町なかガイドを想定して、もし春日がガイドさせてもらえるならば、ということで集めた、狭いテーマの範囲ながら話題満載のメモです。二時間では不足。ミライエ、長岡に関連する殖産興業、教育の系譜、グラフィックアート関連人物として、ガイドで取り上げたい人々を、3章に掲げました。殖産興業、教育の系譜の関連では、銀行、石油、鉄道を中心として、三島億二郎の周辺の人物の話にしたいと思います。これらの人物には彫塑家武石弘三郎の作像も多く、作成のトピックスを横糸に使います。アートの関連では、斎藤義重さん、亀倉雄策さん、ミライエ・ピクトグラムの廣村正彰さん、大ガラス絵の長岡造形大・遠藤良太郎先生、長岡造形大の初代学長で摂田屋町おこしでも尽力された豊口協先生、そして摂田屋のポスター美術館創始者の秋山孝先生をあげ、ミライエならではのストーリーを、いくつか作成したいと思います。

- ストーリー1 藩校・国漢学校、長岡洋学校、誠意塾、女学校、実学校など、多様な学校創立の背景、創立に関わった人々の話。
- ストーリー2 武石弘三郎の作像による人物を中心に、産業、学術に貢献した人々の話。
- ストーリー3 長岡の町なかは、よく見ますと意外なほど、デザイン、アートに溢れています。関連した話題を中心に歩きます。
- ストーリー4 長岡の町なかでも、戦災でも消えなかった江戸以降の歴史を語ることは可能です。見えない歴史ですが。

観光ガイドコースの話題素材を、次頁以降にまとめました。
 産業振興関連話題、教育の系譜に関連する話題
 ミライエ、及び長岡のグラフィックアート関連話題
 金禄公債とは (きんろくこうさい)

記念館訪問を含め、再構成

記念館訪問を含め、再構成

(1)河井継之助記念館、山本五十六記念館と栄涼寺、長興寺コースの
時間配分の試算

	ここまでの 距離m	徒歩 時間・分	滞在 時間・分	予想 着時刻	予想 発時刻
長岡駅など待ち合わせ場所	0				9:00
米百俵プレイス(大ガラス絵)	700	12	2	9:12	9:14
明治公園長岡空襲爆心地	550	9.2	2	9:24	9:26
高野五十六生家跡	200	3.3	5	9:30	9:35
山本五十六記念館	300	5	30	9:40	10:10
河井継之助記念館	200	3.3	40	10:14	10:54
栄涼寺	850	14	8	11:10	11:18
長興寺	650	11	8	11:29	11:37
長岡駅に戻り	1400	23		12:00	
累計	4850	81	95		

(1)「ここまでの距離m」とは

米百俵プレイス(大ガラス絵) 700mは、駅からの距離という意味 です。

(2)「徒歩時間・分」は 歩行速度 平均1m/sec , 60m/min としています。
説明しながらを含みますので、少し速足です。

(3)「予想 着時刻」については、徒歩時間の少数を補正しています。
 $80.83 + 95$ は、180に一致していませんが、概算です。

(4)最後の区間は急ぎ足で、12:00 に間に合わせます。

産業振興関連話題

(C)春日正利

三島億二郎と関連する人物に関する、ごく限られた話題です。かつてのオイルシティの痕跡は町なかにありませんが、東山からのパイプラインや鉄道で輸送した原油を精製する製油所群は中島の柿川左岸にありました。

関矢孫左衛門(1844 - 1917)

第六十九国立銀行初代頭取 北魚沼・並柳の地主、事業家

戊辰では居士隊で新政府軍に協力。衆議院議員。私財を投じて学校、北海道開拓に尽力。関矢孫左衛門が1879、北魚沼郡長となり、退任。

中山間地の農村で暮らす住民の困窮を救うべく、三島は、明治十九年、北越殖民社(初代社長は大橋一)を設立し、農民を北海道へ移住させる事業に力を注いだ。

関矢孫左衛門が、初代社長大橋一の死後、自身の北魚沼郡長の職を投げうって北海道に渡るなど、諸氏の協力で事業を成功に導いた。北海道江別市野幌の越後村には関矢孫左衛門の住居跡の千古園が残っているそうです。

山口権三郎(1838 - 1902)

1886年(明治19年)、石油産業の重要性に着目し、日本石油会社を設立。

1889-1890年(明治22年)、欧米視察

明治22年(1889)4月アメリカ石油事情視察の為欧米旅行に出発。米では、福沢諭吉の女婿桃介の案内。6月ヨーロッパへ向かう。1ヶ月後フランスへ、パリ万国博見学。ドイツへ、新渡戸稲造の案内。ロシア、ポーランド、スイス、イタリアを回る。ボンベイ・シンガポール・上海をまわり、明治23年(1890)

3月2日 欧米旅行を終えて長崎へ帰国。

帰国後、なぜ、鋼条採掘機の導入、実業学校設立、そして、タンカー、石油荷役機械、ディーゼルエンジンと、次々に石油関連

事業を推進する機械を自社製造していったか。この答えが、欧米視察の中にあったようだ。新潟鉄工を、その突破口にしたのである。

皇国(すめぐに)を守らん船を外国(とつくに)に、つくらしむるぞ辛くもあるかな

(英国造船所で日本発注の船舶視察時)

国のためおのがためとて国々を、見ればなすべきことのおほかる

(フランス、ドイツ・ベルリンなど視察時)

～国を思う心、愛国心と、小国の郷土史家の高橋実先生が述べている。

長岡郷土史 Vol55(2018)

まさに明治の事業家の志であり、これこそが権三郎を石油採掘、及び石油関連事業に傾倒させた理由であろう。放電石油の山田又七の同じく、実用教育、工学教育の必要性を感じ、教育振興へも配慮している。

新津油田の中野貫一と同じく、地元の小学校建設も成し遂げている。

権三郎は、石油事業の推進とともに、銀行創設にも、着手する。

1892年(明治25年)、青年たちに実業の知識・技術を学ばせようと長岡に実業学校を創設。

1895年(明治28年)に日本石油付属新潟鉄工所開設。

日本石油(現・JXエネルギー)の関連事業部門として、新潟県新潟市で石油事業関連の機械製造を開始した。

1896年(明治29年)、小千谷金融会社・長岡銀行を設立。(第四北越銀行)

1898年(明治31年)、信越線、直江津・新潟間の開通に尽力(北越鉄道会社)

1902(明治35)年には長岡分工場

久須美秀三郎(1876-1928)

明治35年以降衆議院議員に2回当選。後に勅撰議員の声をかけられるも辞退。その力を地方の開発に注ぎ、明治15年には山口権三郎等と尼瀬石油組合を組織。

早くから鉄道の重要性を説き、明治20年より北越鉄道(現信越線)の創設に奔走。北越鉄道開通後は同志と図り越後鉄道の開通に尽力し、大正2年(1913)に白山柏崎間全線営業を開始。新潟鉄工所、長岡銀行、日本石油、新潟水力電気等の各社取締役を務めた。

詳しくは、MfG_J_Sculpture_of_Takeishi_Kouzaburou_in_Niigata.pdf

田村文四郎(北越製紙創業者)、山田又七(宝田石油創業者)

長岡の事業家であるとともに、令終会設立のメンバーでもあります。

詳しくは、MfG_J_Yuukyuzan_Topics.pdf

MfG_J_Yuukyuzan_steles_monument.pdf

MfG_J_Reishuukai_TamuraBunshirou_TakahashiSuisson.pdf

田村文四郎

(1) 田村屋から田村商店へ

1753年(宝暦3年) -260年前- 初代田村仁之助が長岡の地に瀬戸物を商う「田村屋」を創業。堅実な商いによって成長し、3代目田村文四郎の頃に、瀬戸物のほかに、日本各地から紙を取り寄せて販売を行なう紙の卸業を開始、今の田村商店の礎が築かれた。～50年ほど前、スズラン通りに広い間口をもった店舗を覚えておられる方もおられると思います。

(2) 6代目田村文四郎と北越製紙

その後、6代目田村文四郎は町会議員を勤め、道路や橋、令終会など、会社地域の基盤づくりに尽力。さらに、1907年(明治40年、北越製紙株式(現北越コーポレーション)を創立、明治末期には紙製品・文具の卸業を開始。

昭和に入り、日支事変に始まった統制経済下では、新潟県ノート販売会社を設立。県内学校教育を支える役割を中心的に果たすなど、地域とともに歩む。

(3) 田村文四郎、山田又七の銅像

悠久山の堅正寺脇に、田村文四郎、山田又七の銅像が並んでいる。田村文四郎像は武石弘三郎の作像の縮小版、山田又七像は長岡出身彫金家の田中後次の作像で、武石弘三郎の山田又七像より早く製作されている。田中後次、武石弘三郎のふたりは、1908年の頃、出張、留学中で、ともにヨーロッパにいたのも、奇縁である。悠久山公園開園100周年の記念事業として整備された銅像群です。田村文四郎を父に持つ文吉氏の積雪科学館建設の助力も忘れ難い。

(4) 堅正寺の初代住職の橋本禅巖住職とその後のリレー

以下は、悠久山堅正寺の初代住職の橋本禅巖住職と、曹洞宗の元管主であって近代曹洞宗の学林を創設したことも知られる高僧、新井石禅師とのご縁、山本五十六、駒形十吉さんへのリレーの話です。

～橋本禅巖住職と新井石禅師との出逢いに想うこと

曹洞宗の寺院に、大雄山最乗寺という大寺院があるそうです(神奈川県南足柄市)曹洞宗では北陸永平寺、鶴見の総持寺に次ぐ大寺院とのこと。ここで、橋本禅巖住職は、新井石禅師と出逢った。堅正寺初代橋本禅巖住職は、最乗寺におられた新井石禅師に師事、石禅師の総持寺入山に付き添って総持寺でも師事。石禅師が総持寺管主を経て示寂の後、禅巖師は総持寺を去り、魚沼の雲洞庵に禅道場の指導者として入山し、さらに研鑽につとめた。ちなみに、雲洞庵は若い時に新井石禅師が方丈をされた古刹です。そのことがあって、禅巖師は、生涯の師・石禅師との別れの後の学びの場として雲洞庵を選ばれたのだと思う。

そのとき雲洞庵に、二代駒形宇太七が新たに造成中の禅道場の教師を探しに訪れ、そこで禅巖師を紹介され、方丈として迎えた。

禅道場は、堅正寺とし、山号を悠久山と名づけられた。

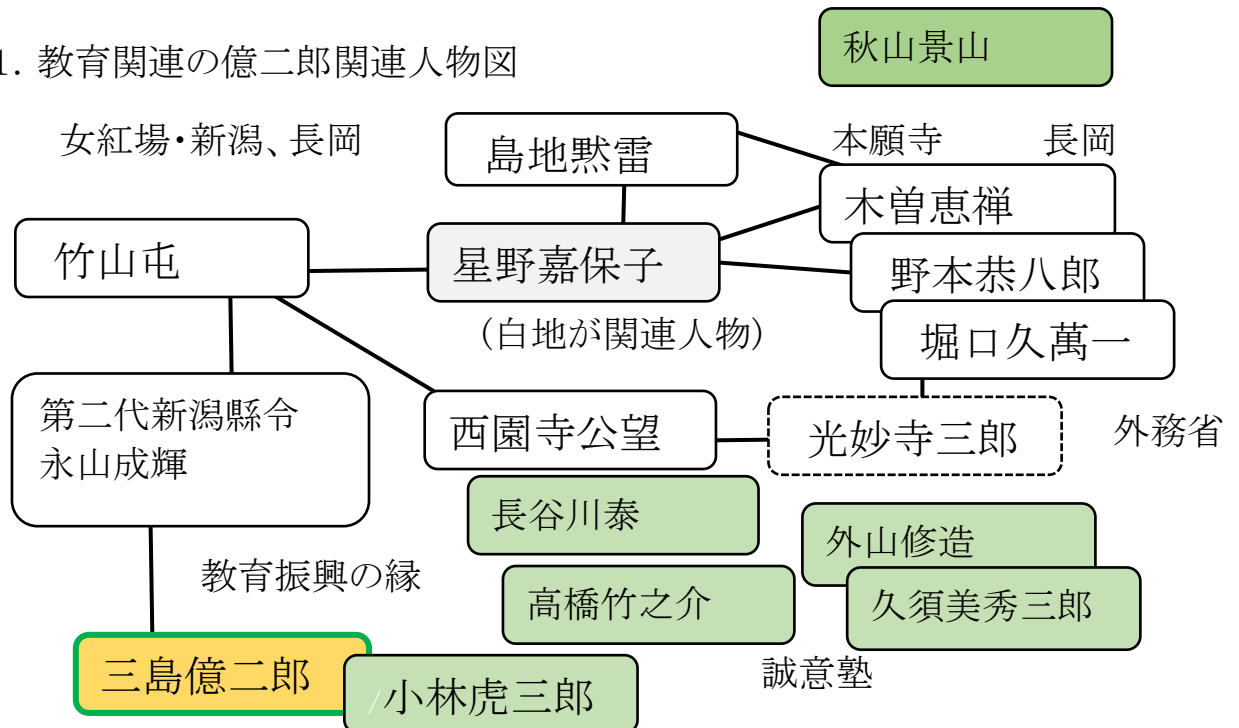
ここで為されたという帰省中の山本五十六の講演のなかで、数々の五十六語録にある話がなされ、禅巖師の講義録に残されたとのこと。

これらの、いくつかの出逢いがなければ、その後の駒形十吉さんの活躍も、違ったものになったでしょう。数々の五十六語録も残らなかったかも知れないと思うと、なんという、ご縁。この話は本来、教育の系譜の章に入れるべきかも知れませんが、いずれにせよ、駒形十吉さんの「大光」の話と合わせ、ガイドでお話しできたらと思います。

なお、摂田屋のサフラン酒離れ座敷の掛け軸の詩、「心は大山の如く八風を受けて動ぜず・・・」は、新井石禅師ご自身の詩の直筆の書です。大乘仏教の本質をわかりやすく説く、よく練られた内容だと思っています。

詳しくは、MfG_J_High_priest_Arai_Sekizen.pdf

1. 教育関連の億二郎関連人物図

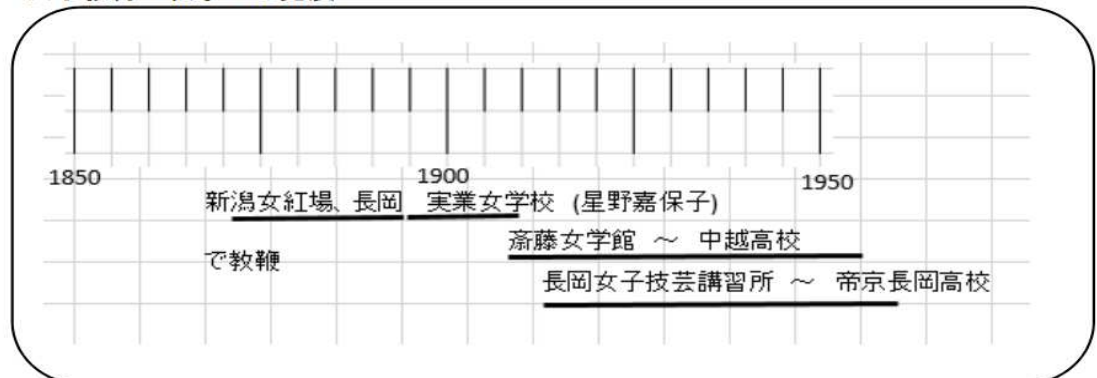


2. 江戸から昭和初期の長岡の教育、女子教育の年代図

藩校、漢学塾から国漢学校、長岡洋学校



女子教育～私学への発展



3. 関連する教育関連の人物 補足

木曾恵禅（1817-1896）

十二才で長善館文台に経史を学ぶ。十七で新井市正念寺勧学朗師について修業し、長岡長永寺に養子に入り継ぐ。さらに京都で本山学林で刻苦研鑽した。天保十二年教学振興について意見が合わず帰国。弘化二年、実践窮行を塾是として境内に私塾「囂外鬻(こうがいこう)」を開設し、僧俗の子弟や郷子弟に仏学や漢学を教えた。遠近評判を聞いて塾学する者が多かったという。門下に真宗の高僧七里恒順、のちの東大総長小野塚喜平次ら。～明治の初期、恵禅は布教のため、弟子とともに、栃尾、摂田屋など各地を回っています。私は、この恵禅が、摂田屋の星野本店やサフラン酒など商家の当主に、中国文化・漢文の素養を与えた知識人のひとりと、確信しています。摂田屋での普及訪問寺院は、恵禅の長永寺と同じ、浄土真宗本願寺派の光福寺。星野本店の目の前であり、サフランの吉澤仁太郎が一時期養子に出た、母の実家近くでもあります。

互尊翁野本恭八郎（1852-1936）

恭八郎は、幼少時から、小国の生家や藍沢南城の三余堂で儒教に触れ、また養子として長岡に来てからは仏教、特に星野嘉保子、木曾恵禅との交流から浄土真宗に深く触れる時間を持った。

四代目の互尊文庫は素晴らしい施設であり、ミライエの中心施設のひとつであるが、二代目、三代目の互尊文庫の近くで子供時代を過ごしたひとりとして、いろいろな感慨があり、そんな話ができることも楽しみです。

種田山頭火(1882 - 1940)が初代互尊文庫を詠んだ句碑が、柿川・追廻橋のたもとにあります。「図書館はいつもひっそりと松の秀」。長岡の俳友小林銀汀氏宅の二階より若葉ふりそそぐ隣接の互尊文庫を眺めてつくったとのこと。どんな風景だったでしょう。

秋山景山（1758-1839）景山は号。（古田島吉輝ふるさと長岡の人びと(1998)）

秋山家は代々牧野氏の家臣であった。父貫平の家督六〇石を継いだ。寛政四年(1792)に御書物掛りを命じられて江戸勤務となった。翌年、荻生学派の服部南郭の養子である服部真蔵の塾へ入門した。そこで、古語の意義

の帰納的研究により古典の本質を理解しようとする古文辞学を学び、荻生徂徠の実学尊重の考え方を身に付けた。

文化五年(1808)に藩校崇徳館が創設されると、秋山景山は「学問所主取」に任命され、藩校教育確立の第一人者となって活躍した。その実績により、同十年に一〇石加増された。さらに、十二年には崇徳館都講(校長)に任命された。天保四年(1833)一旦辞任するが、翌年に再任され、七年まで勤めた。この間通算二十一年もの間、都講として崇徳館の教育をリードした。

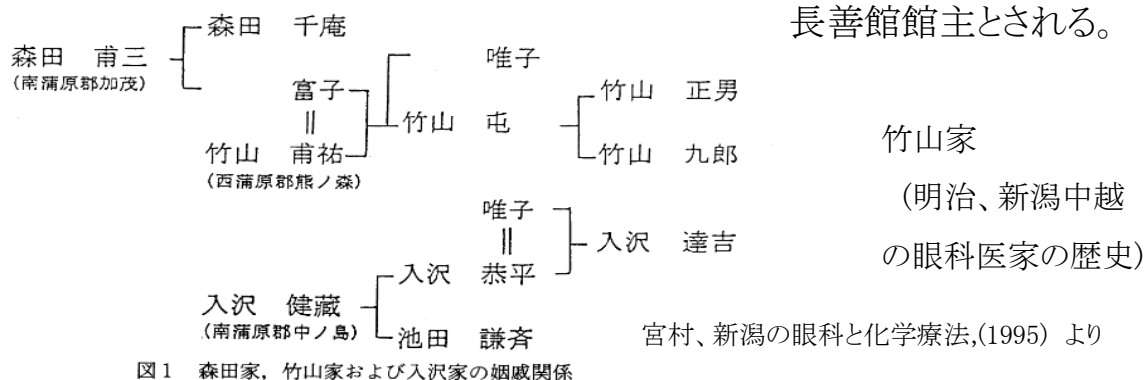
景山の教育方針は、儒学の朱子学・古義学・古文辞学などに固定せず、生活行動に役立つ学問を身に付け、実践躬行を諭した。学生の教育に当たっては、一人一人の欠点を是正することより、それぞれのもつ天分のよさを見いだし、それを助長することに努めた。(長善館設立の趣旨、塾名の由来と同じ。)

そのため、崇徳館で学ぶものが常に二〇〇名を下らなかった。天保二年(1831)に学問・教育に尽くしたとして家禄三〇石を加増されて一〇〇石を与えられた。七年七十九歳で都講の職を辞した。

後任は朱子学派の高野松陰で、狙佛学の灯火は絶えたが、景山が育てた実利思想は長岡藩全体に浸透していった。三年後の十年八十二歳で病没。宮内APMの秋山孝さんは、御子孫。(牧野忠昌様、秋山孝追悼文集にて)

竹山屯

戊辰の役の越後戦線において一年余、西園寺公望の従軍医師として同行。医師の名家の出身、新潟医学校の初代校長として、新潟の医学の初期貢献。木曾恵禅に漢文をを教えたとされる。ちなみに恵禅に四書五経を教えたのが長善館館主とされる。



竹山屯の義理のいところに、西蒲原西船越の小川家の香保子、のちに長岡の医家・星野家の養女となった星野嘉保子。蒲原の医家のつながりを感じます。

高橋竹之介

戊辰の役で新政府軍越後戦線の参謀役であった勤王家燕の漢学塾、長善

館に在籍。明治14年(1881年)、私塾の漢学塾、誠意塾を開設。誠意塾を閉じた後は、大河津分水建設に尽力。三島億二郎の没後翌年の追悼会で、長文の詞をささげている。中之島杉之森の記念碑の文字は、塾門人の武石貞松。同じく中之島長呂に、貞松、堀口久萬一の「友情の双像」が、門人で、日本彫塑界の先人・武石弘三郎の手になるブロンズ像がある。

西園寺公望と武石弘三郎、長善館人脈を含む、新潟との関連の詳細説明

(*1) 戊辰の役、越後戦線

(C)春日正利

竹山屯、西園寺公望付きの従軍侍医として、公望の越後戦線に同行した。1月3日、仁和寺宮嘉彰親王を征討大將軍に、続いて三位中将西園寺公望を山陰道鎮撫総督に任命し、西園寺公は5日、山陰道に向けて出陣し、播磨、松江を平定してから5月初めまで、大きな戦にはならなかった。5月2日(6月21日)、小千谷慈眼寺会談決裂で本格的戦争に突入する。八丁沖の継之助率いる長岡城奪回作戦に、西園寺公望も山縣有朋とともに窮地に陥り、当時越後平野は大洪水に見舞われ、かろうじて避難。この洪水の体験は、西園寺公望の記憶に、深く残ったと思います。長谷川泰は長岡藩藩医。 長谷川泰像は、大正5年。竹山屯像は、大正15年。 同年に今井藤七像。高橋竹之介は、新政府軍越後参謀として、西園寺公望、山縣有朋の傍にいたはず。 長谷川泰、竹山屯、高橋竹之介は、みな長善館で学んだ。

(*2) 新潟府知事として

初代新潟府知事になった西園寺に、新発田藩が大河津分水建設を訴え、西園寺は政府に打ち上げたが、政府は動かず。公望のあとも繰り返し多くの請願が出されたが、採択に至らなかった。

(*3) 教育への関心

1895年に西園寺公望は日清戦争で得た賠償金をもとに第三高等学校を帝国大学へ昇格させる運動を指導し、1897年6月18日に京都帝国大学設置に関する勅令が制定され、京都帝国大学が発足する。西園寺公望は立命館のもとを創設でも有名であるが、このあと、女子教育の普及にも尽力するようになり、そのひとつに長岡の星野嘉保子への関心。市内唯敬寺本堂にかかる公望直筆の「以成肅雍之徳」の揮毫の年は、「戊申秋題長岡女學校」と宛書に書かれておるように。戊申・明治41年(1908年)と思われ、西園寺内閣総辞職後の秋ということ。明治41年(1908年)は、星野嘉保子歿後4年です。



写真は、2015年9月からのNHK朝の連続ドラマ「朝がきた」の実話モデルの、日本女子大学創立に関わったころのもの。建設中の日本女子大学豊明館前にて(1905)放送期間平均視聴率23.5%は、連続テレビ小説として今世紀最高の視聴率を記録した。

後列左から成瀬仁蔵、広岡浅子、村井吉兵衛、塘茂太郎
前列左から、久保田譲、森村市左衛門夫妻、大隈重信、西園寺公望

悠久山に星野嘉保子の銅像が建立されたのは大正十二年(1923)、星野嘉保子像脇の「以成肅雍之徳」石碑が建立されたのは昭和十一年(1936)とされています。

(*4) 「北陸治水策」、「新潟治水会」の要望

横田切れを機に、大河津分水の実現をめざす運動は再び活発になった。有志による新潟県治水会が組織され、新潟県会は信濃川治水、大河津分水の実現を求めて、内務大臣へ建議・陳情した。

中之島村(現長岡市中之島)の高橋竹之介は、明治30年(1897)、政府の有力者山県有朋、松方正義両者にあて「北陸治水策」を書き建白。「治水策」は、近年の洪水は水源地長野県の山林の乱伐によるものと断じ、大河津分水の利を唱え、すみやかに県債を起こして開削すべきことを強く訴えた。

更に13年後の明治43年(1910)、新潟治水会の名で、県会議員一同が「大河津分水工事短縮」の議を政府に要望。

大竹貫一も、明治27年衆議院議員に初当選以来、34年10か月間、国会議員として活躍したが、とりわけ刈谷田川改修や大河津分水の治水事業に尽力した。彼も、長善館で学んでいる。

さらに、ここには記載しませんでした。この他にも大勢の長善館で学んだ人物が、大河津分水建設運動に関わっている。

(*5) 武石弘三郎の作像は、ベルサイユ条約帰朝後の私邸

帰朝の前年、1918年に、武石弘三郎は、西園寺公望像、池原康造像を製作している。

二度の首相就任と退任の後、大正5年(1916年)、西園寺は正式に元老の一員となり、第一次世界大戦終結後の講和会議などに、政府政策に大きく関与している。大正8年(1919年)1月14日出港、8月24日に東京に帰還。このとき締結されたベルサイユ条約により、日本は山東半島の旧ドイツ権益を継承し、赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島の委任統治権を得ることになる。西園寺公望像は、洋行中に建造されていた駿河台の新邸に作られた。西園寺公望は偶像崇拝を嫌い、ほとんど自分の彫像をつくらせなかったため、貴重であったはず。大正七年(1918)に製作され、大正八年、公望が海外の重要会議から東京に帰還し、洋行中に建造されていた駿河台の新邸に入りました。そのときに新邸に設置されたようですが、まもなくに発生した関東大震災より破損したとのこと。その復元石膏像のレプリカが現在立命館大・朱雀キャンパスに展示。

星野嘉保子 年表

(C)春日正利

年表、トビックス MfG_J_Hoshino_Kahoko_and_Buddhism.pdf より

西暦 年齢

1847		西蒲原郡岩室村西船越庄屋 小川寛三郎の長女として誕生 父は仏教に篤く、母から裁縫を厳しく習った。	
1853	6	長岡、表町の二代星野宗仙の養子となる 宗仙の妻は、所謂賢婦ではなかったらしい	このころ、継姉の夫の竹山屯とも交流
1867	19	二代星野宗仙没	養家の寺唯教寺
1875	28	縣令永山成輝氏の家庭教師に雇われる 縣令が懇意の竹山屯に子弟の家庭教師がい ないか問うて、屯が嘉保子を推薦。	永山県令、そして恐らく三島億二郎とも
明治8末			
1875	28	許嫁の渋川一三 没	
1876	29	新潟女紅場設立	県令は1875年11月-1885年4月
1877	30	新潟女紅場総取締となる	
1880	33	明治13 長岡山田町に藝娼妓裁縫傳習所が設置され、 その父兄らに請われ、その教授となる	
1881		山田町唯敬寺で芸娼妓の裁教授に勤める功績で本山・ 本願寺より、念珠。 後、明治20年本山より六字名号。 長永寺で開催の婦人法話会で野本恭八郎妻りくと交友	
1890	43	長岡女学校開校 勝を養子に迎える	木曾恵禅、野本互尊と交流
1897		火災被災	恵禅から本山とも関わり、黙雷とも
1898		観光院町牧野子爵家の別邸を譲受け校舎落成	
1899		佛教慈善會を起し浄財を求めて慈善事業に尽力する 島地黙雷師ら高僧を歴訪し、賛意を得て、 木曾恵禅師はじめ地方寺院の篤志家とともに諸方へ托鉢	
1904	57	嘉保子 没	恵禅だけでなく、嘉保子も摂田屋?
1908		西園寺公望 女学校を訪問、「以成肅雍之徳」揮毫	
1923		勝 没。 学校32 年間で閉校 嘉保子像 建立	女学校PTAを通じ、市民にも知られる

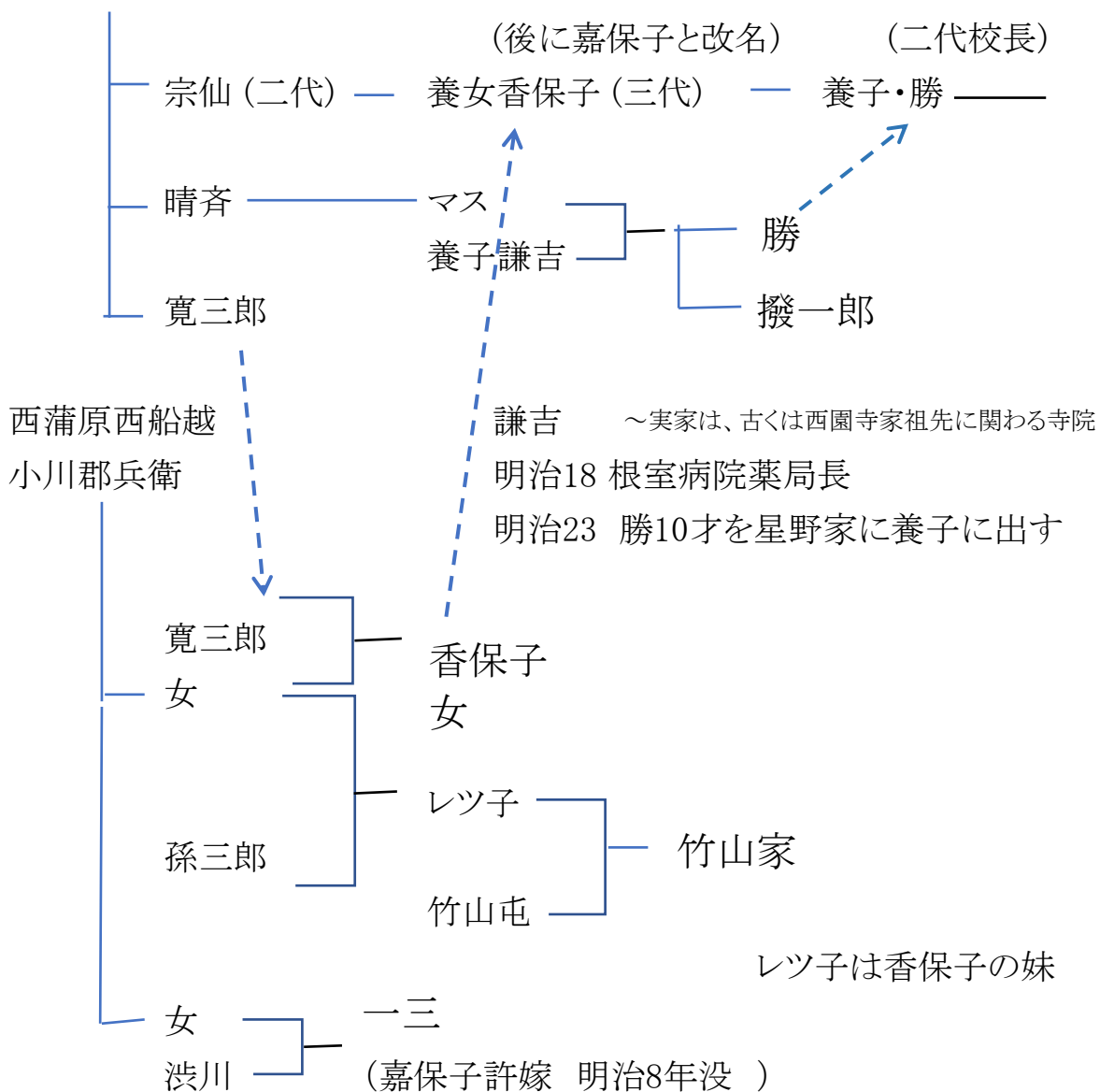
私感

どうしたら、嘉保子氏のような凄い人物が登場できるのか。
 幼少期の養女になる前、星野家に入ってから、更には養父、
 許嫁の死のあとと、出会う人、出会う人、それぞれから、
 本当によい影響、感化を被ったのであろう。いつも恩徳讃
 を口にしたというご本人の資質もあったであらうでしょう。
 嘉保子師の人生は、ご法話そのものの様な気がします。

実家・養家の家系

長岡 表町の医師

星野宗仙 (初代)



嘉保子碑トピックス

(C)春日正利

星野嘉保子碑の「以成肅雍之徳」について (2016年11月 春日正利)
 「長岡歴史事典」には、「以成肅雍之徳」 せいしゆくをもってとくのまもりとなす、
 つつしみ深く穏やかな徳(恵み)の人である、という意味とされていますが、
 実際に西園寺公望が揮毫した扁額が、星野家菩提寺、草生津の唯敬寺本堂
 にあり、その扁額脇に掲げられている添書きの説明は、これと少し異なります。

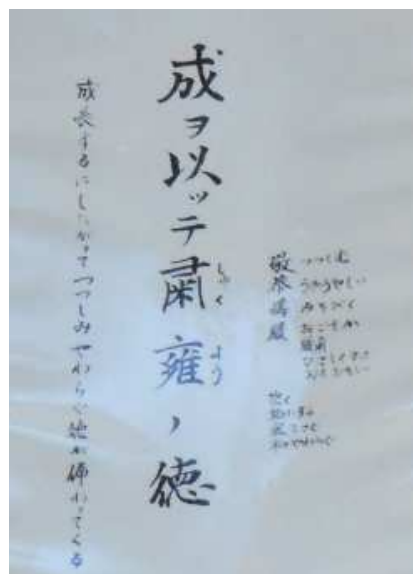
本堂で拝見した扁額添え書きのご説明にある「成るを以って、肅雍の徳」の、
 「成長するにしたがって、つつしみやわらぐ徳が備わってくる」、という解釈は、
 この扁額が、学校で毎日生徒達が仰ぎ見る講堂に掲げられていたとの
 三条住職のお話と考え合わせると、なるほど、そう受け取るべき、とも感じます。

しかし、事典の説明のように、当時のご住職様が、日ごろの熱心なご門徒で
 あった嘉保子さんの遺徳を偲んで、「つつしみ深いおこころのなかに、慈悲を
 たれるお方であった、という、嘉保子先生の優れた徳を讃えるようなことを
 書いてほしい」と、公望さんをお願いし、それに対して、「では、以前に書いた
 講堂の扁額の読み方を変えてみては」、と言ったという受け取り方もあるように
 思います。

阿弥陀様に深く帰依した先生ですから、この徳は、
 先生が日ごろ詠まれたであろう親鸞様の和讃の
 恩徳讃(*1) の「恩徳」、「仏の恩徳」であり、つつしみ
 '深いおこころのなかに慈悲心を示される、という
 ようなことではないかと、
 拝察しております。

(春日の私見)

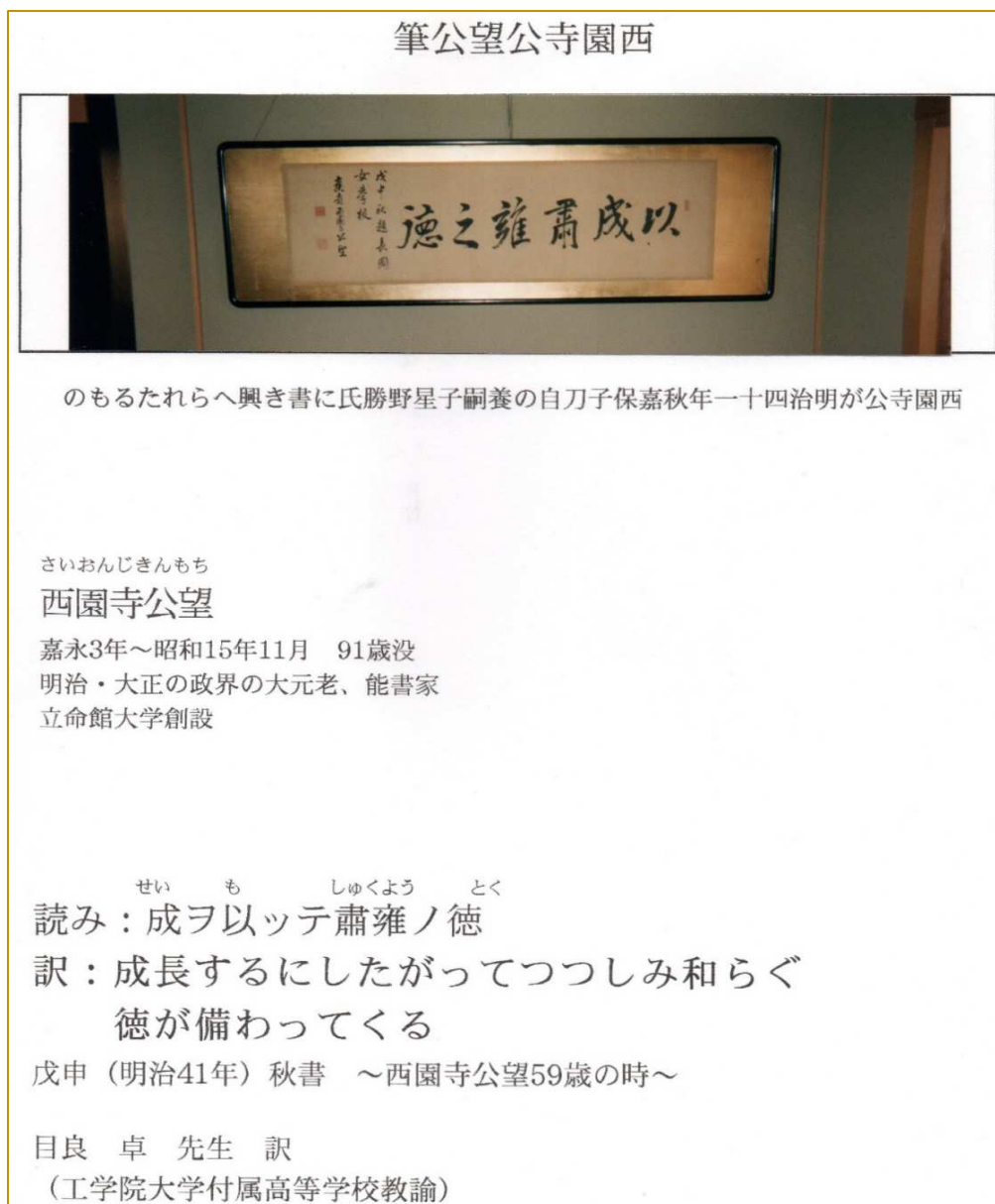
西園寺公望揮毫の
 唯敬寺様本堂扁額と
 扁額添え書き



揮毫の年の戊申は明治41年(1908年)と思われます
星野嘉保子歿後4年たっております。

石碑の碑文

銅像が建立されたのは大正十二年(1923)、
記念の石碑が建立されたのは昭和十一年(1936)とされています。



(※1) 親鸞様の和讃の恩徳讃（正像末和讃）
如来大悲の恩徳は、(によらいだいひのおんどく)
身を粉にしても報ずべし(ほうずべし)
師主知識の恩徳も、(ししゅちしきのおんどく)
骨を砕きても謝すべし(しゃすべし)

ミライエ、及び長岡のグラフィックアート関連話題

(C)春日正利

ミライエ、長岡に関連するグラフィックアート関連人物として、
斎藤義重さん、亀倉雄策さん、ピクトグラムの中村正彰さん、大ガラス絵の 作者
造形大遠藤良太郎先生、造形大の初代学長であり、摂田屋でも尽力された
豊口協先生、そして秋山孝先生をあげ、ストーリーを作成したい。

斎藤義重(よししげ 1904 - 2001) 「ぎじゅう」と読まれることもある。
青森県弘前市出身の現代美術家。1964年多摩美術大学教授。
絵画と彫刻の垣根を超えた表現を追求し、戦後以降の現代美術をリードした。
1964年には長岡現代美術館のために壁面レリーフと前庭を制作。
アメリカ合衆国の美術館を「新しい日本の絵画と彫刻展」が巡回した関係で、
1965年から半年間ニューヨークに暮らし、ジャスパー・ジョーンズ、草間彌生ら
と出会った。1969年には多摩美紛争で大学理事会と対立、1970年以降は
同大学で一切の講義を持つことはなかった。

亀倉雄策(1915 - 1997) 日本のグラフィックデザイナー。
日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA)初代会長。
代表作にフジテレビジョンの旧シンボルマーク(8マーク)や日本電信電話の
マーク、TDKおよびニコンFのロゴマーク、1964年東京オリンピックポスター等。
ニコンFのロゴマーク制作の過程はつとに知られ、工業デザイナーの地位向上
に大きく寄与した。県立近代美術館は、氏の寄贈により、作品の多くを所蔵。

豊口協(1933) 日本の工業デザイナー。
現在、長岡造形大学名誉教授、東京造形大学名誉教授。元東京造形大学
学長、元長岡造形大学学長・理事長。専門分野はインダストリアルデザイン。
産業界では、松下製品のデザイン多数。

ポスター美術館の秋山孝先生(1952-2022、多摩美大教授)

近年リノベーションなどで急速に消滅しつつある摂田屋商家の風景を、
素敵なポスターにたくさん残していただきました。 大変な財産と思います。

先祖に崇徳館都講の秋山景山がおられます。

秋山孝ポスター美術館長岡 APM

長岡市出身で2022年1月18日にご逝去された秋山孝氏の作品を展示・収蔵
する「秋山孝ポスター美術館 長岡」および「蔵」が収蔵作品とともに、同年
11月に長岡市に寄贈されました。「長岡市に寄贈したい」という秋山孝氏の遺
志を引き継ぎ、ご遺族・秋山はる江様(妻・東京都在住)から贈られたものです。
2023年4月漢り、市から運營業務委託を受けたミライ発酵本舗株式会社が、
旧機那サフラン酒本舗とAPMの運営を併せて担当していくことになりました。

近年では、亡くなられたが、木工オブジェの近藤邦夫氏。
その他、世界的な現代庭園デザイナーで近美前庭に作品を残す梶野俊明氏。

武石弘三郎 (1877年-1963年)

関連年譜

1901年(明治34年) 東京美術学校彫塑科卒業。その後、ベルギーに8年間
留学で滞在、ブリュセル国立美術学校に学んだ。

1909年(明治42年)帰国。同郷の石黒忠恵の知遇を得、その
関係で松本順・石黒忠恵(ただのり 陸軍軍医)像や
森鷗外像の制作を手がけた。

1919年(大正8年) 内藤久寛像を製作(日本石油設立者のひとり。石地出身)
田村文四郎像の製作は、その後と思われます。

1920年(大正9年) 山田又七像を製作

1920年(大正9年) 石黒忠恵像を製作

1926年(大正15年) 竹山屯像を製作

1926年(大正15年) 今井藤七像を製作(北海道の老舗百貨店
丸井今井の創業者、三条出身)

近隣の武石弘三郎作のブロンズ像、大理石像 '191205春日

(全てでは、ありません)

堀口九萬一、武石貞松	中之島・長呂の若宮社参道脇「友情の双像」
星野嘉保子 (復元像)	草生津・唯敬寺本堂前
田村文四郎 (オリジナル縮小像)	悠久山・堅正寺脇 (オリジナルは北越製紙内)
久須美秀三郎	越後線小島谷駅前
久須美東馬	弥彦公園内 瓢箪池の傍
池原康造 (復元像)	新潟市・新潟大学医学部池原記念館前
竹山屯 (大理石像)	新潟市・新潟大学医歯学図書館三階
新津恒吉 (復元像)	新潟市・りゅーとぴあ入口前
狛犬 (本人による再製作)	中之島・若宮社 (初代の狛犬は戦時供出)
老母	県立近代美術館所蔵(お嬢さんから寄贈)
今井藤七 (本人による縮小像)	県立近代美術館所蔵
裸婦像レリーフ (大理石像)	県立近代美術館所蔵

武石弘三郎について、いくつかの話題

～ 木彫彫刻には手を出さず、もっぱら大きなブロンズ像を注文に応じて製作していたため、大半が屋外に展示されていて、人々の目についたこともあったでしょうが、戦前の、百体を越すと云われる作品の殆どが、戦時金属供出により失われています。そのため、武石弘三郎の名は、東京美術学校彫塑科の一期卒業で、日本最初期の塑像作家でありながら、余り知られていないのが、残念です。県内には、戦後、郷土の人々に懇願されて作像した銅像も復元像を含めて随所にあり、弘三郎ファンとして、たいへん嬉しい限りです。

～ 留学から帰国後の初期の代表的作品に、大正4年(1915)の大倉喜八郎像があります。昨年、大倉集古館改装に伴い、ブロンズ像の周囲もリニューアルされたそうですが、私が、この巨大な喜八郎像を見たのは、今から二十年以上前で、そのころは、作者の武石弘三郎の名も知りませんでした。

作成当時の喜八郎の『今までに最も感動した場面の、中国借款契約書を手し、庭の大樹の下に据えた椅子に腰をかけた私を表現してほしい』とのエピソードが、若山三郎さんの小説「政商 大倉財閥を創った男」の中に書かれています。(学研文庫版のp344-346)

～ 番外の話題 中之島の堀口久萬一・武石貞松が並ぶ「友情の双像」制作の経緯の物語は、私としては、大河ドラマ推薦です。

「友情の双像」作者の弘三郎以外の武石貞松、堀口大學・九萬一の三人は、長岡の歴史にも大きな足跡を残しており、堀口大學は文化勲章詩人、さらに久萬一は、いくつかの世界史に残る史実に深く関わっています。あまり知られていませんが、原子力、人権の現代的話題もあります。四人を中心としたノンフィクション小説の出現を期待しています。

司馬遼太郎さんの「坂の上の雲」に勝るとも劣らない、明治から大正、昭和の戦後までを語る、平和希求をテーマとしたスケールの大きな、一大時代小説になると、確信しています。

詳しくは、MfG_J_Person_in_Nagaoka_Horiguchi_Kumaichi_and_Takeishi_Teishou.pdf

～ 更にミニ話題。私の特に好きな作品は、「友情の双像」、新潟の新大構内にある二つの作品、竹山屯の大理石像、そして池原康造像です。(竹山屯像は新潟大火で破損したが焼失を免れ、長く竹山病院関係場所に保管されていたところ、県立近代美術館の主任学芸員さんの尽力もあり、近年、新潟大学医歯学図書館3階の記念室に鎮座、公開されています。)

最後に武石弘三郎作品から、本ガイドに関連する像主のリストを示します。(像主とは、肖像の対象人物)

武石弘三郎ノート・作品年表より

佐々木嘉朗著、彫塑家・武石弘三郎ノート(1985年、北日本美術)

長岡、新潟関連、及び全国的な著名人のみのリストです。

医師、軍医、医学者 1 松本順 M45 2 石黒忠恵 M45 1と共通像 3 石黒忠恵 T9 4 森鷗外 T9, T12, S37 5 長谷川泰 T5 6 竹山屯 T15 7 池原康造 T7	事業家 11 三井高棟 T12 12 大倉喜八郎 T5, T10, T11, S2, 不詳 13 渋沢栄一 T5, T6 14 大隈重信 制作年不明 15 西園寺公望 T7 16 今井藤七 T15 17 大橋新太郎 S4 18 山田又七 T9 19 内藤久寛 T8 20 田村文四郎 T9? 21 新津恒吉 S13 22 久須美秀三郎 S34 23 久須美東馬 S34
武士、軍人、皇族 41 阿部正弘 T11 42 鍋島閑叟 T11 43 佐久間象山 T4 44 乃木希典 S11 45 山本五十六 S18	 <p>竹山屯像 (補修前の 大理石像)</p>
芸術、その他 61 星野嘉保子 T12 62 西脇順三郎 T13 63 川端玉章 M44 64 小泉八雲 S4 65 土井晩翠 S28 66 堀口久萬一、 S35 67 武石貞松 S35 67と共通像	

補足	三井高棟 今井藤七 西脇順三郎 新津恒吉 大橋新太郎 山本五十六 松本順、石黒忠恵	三井総領家(北家)の第10代当主 三条出身の札幌丸井百貨店創業者 新発田市現存 新潟の石油商社 博文社 製作途中で終戦中断 軍医総監松本順、一等軍医男爵石黒忠恵 (依頼主森林太郎)
----	---	---

武石弘三郎作、武石貞松と堀口久萬一の「友情の双像」 (C)春日正利 近隣のモニュメントの物語的解説

長岡市の北部、中之島長呂の若宮社に建つ武石貞松と堀口久萬一の「友情の双像」の写真を掲げました。像自身も素晴らしい美術作品なのですが、その背後の、この像の二人の人物(像主)、像の作者と撰文作者の物語を知ると、興味が倍加します。左の写真の銅像の作者は篤志家・貞松の弟の弘三郎、中央写真の像脇石碑の撰文は外交官・久萬一の子息・大學によるもので、四人とも長岡で学んだ人物です。うち三人は殿町にあった漢学の誠意塾で学び、その塾の創立者は、新政府軍越後戦線の参謀役であった勤王家・高橋竹之介。越後戦線の旗頭が、後に明治の最後の元勳となる西園寺公望。そして久萬一がロシアとの競り合いの中、外交手腕でアルゼンチンからの購入に成功した巡洋艦を、その直後に投入したのが対ロシア・日本海海戦。それに乗船し負傷したのが、海軍兵学校を卒業したての五十六。さらに貞松もスゴイ人物で、この四人に縁のある人物を手繰っていくことで、ある程度長岡を語れるような気になります。一番右の写真は若宮社の再建狛犬ですが、戦時金属供出された弘三郎のブロンズ製狛犬の再建を、戦後に村人が語り合う中から出た「友情の双像」建立の話もステキです。四人の教育のコースは各々異なり、それぞれの最高ルートです。この狛犬もトラディショナルな雰囲気、彫りもイイ感じです。



「友情の双像」

写真の
和服姿が
武石貞松、
洋服姿が
堀口久萬一

「友情の双像」像

像脇に立つ大學に
よる撰文「双像余情」

若宮社の二代目
神狗のうち、阿形



長呂の若宮社
(長岡市長呂275-1)



若宮社に向かって右側に立つ
「友情の双像」全景

※ 「友情の双像」の脇に立つ、大學による撰文「双像余情」

双像余情

武石弘三郎子ハ双像和服貞松先生ノ末
弟 像及若宮御尊前神狗の製者也 我
大学子ハ双像洋服堀口九萬一先生が長子

双像及コノ碑ノ撰文者タリ 二子ノ出
生大字長呂ト深シ ソノ芸術ニヨリ大学
トタダナラズ 果セル哉一子北越ノコノ
平和ナ豊穰境ヲ愛シ長ク里人ト親シ 里
人悦ビテ吉慶アルゴトニ二子ヲ招イテ歡
儘スヲ常トス依テ碑ノ成ル所以也

昭和三十七年六月

大字長呂里人一同ニ代リ大學之ヲ撰ス



この神狗の 姿も、おごそかささ
え感じる 美しさです。
50年以上、雨風に曝されてい
るのに、ブロンズ像のキレ が鋭
いのに、驚かされます。

※ 教育のリレー 堀口大學、そして武石弘三郎のふたりを、実際に世界に羽ばたかせたのは長兄・武石貞松、父・堀口久萬一の友情による、教育支援です。貞松、久萬一のふたりは、明治14年長岡殿町に尊王の高橋竹之介が作った誠意塾の同級生で寮の同室者。二人の友情は、九萬一の子大學、武石の弟弘三郎へとつながって行きました。大學、そして弘三郎を、お互いの子息同様に気遣い、海外に学んで帰国の折りには住まいの工面をはじめ世に出るまで、支援し続けた話は、誠に心温まるものです。

※ 武石貞松 (1868-1931)長呂村武石弘六の長男として生れる。明治十三年杉之森の高橋家の塾に入門。十五年長岡の誠意塾に入る。十七年堀口九萬一が入門。貞松は塾頭代理として久萬一と同室、生涯の友となる。その後東京に遊学する。仙台藩儒者岡鹿門の塾に入る。三十一年十二月父弘六没し、三十三年帰郷、里正(庄屋)の職を継ぐ。「東北日報」の漢詩欄の選者となる。同紙の同時期の俳句撰者は、会津八一。三十七年に選者を辞す。

「済生利生」、地域のため私費を投入。信濃川流域の荒地に柳を植樹し、柳行李特産の道を開くなど、「殖産・農業経済の振興」に貢献。農地開発の耕地整理を先駆けて行なう。武石郡道と呼ばれる路が残っている。相椅組合を創立する。与板橋の架橋に大竹貫一と努力する。ツツガムシの研究に名古屋医大の林直助先生を招き、菩提寺の黒津願敬寺に研究所を設ける。長呂に家塾「修済館」を設け、各地の漢詩結社を指導する。昭和六年六月十六日六十四才で没す。『南蒲原郡先賢伝』を編纂。

参考「友情の双像」の登場人物と、関連するガイド話題 160930 春日 ©KASUGA

堀口久萬一、武石貞松の終生変わらぬ友情を讃える双像、
双像の作者は武石弘三郎、石碑の撰文は堀口大學

中越
広域ガイド

芸術、文学
ガイド

堀口大學
詩人としての仕事

松岡譲との交友
佐藤春夫との交友

堀口大學、松岡譲は
長岡市内の多くの
学校校歌を作詞

武石弘三郎
彫塑家としての仕事

県内に多くの銅像
(復元像を含む)

身近な人々の 老母像
肖像も残した 真野夫婦像

久須美秀三郎
久須美東馬
池原康造
星野嘉保子
...



長岡の中之島・長呂に
建つ「友情の双像」と
「双像余情石碑」



堀口久萬一
外交官としての仕事

日露戦争・巡洋艦購入

日本海海戦投入と
山本五十六との関わり

武石貞松
郷土への貢献
(殖産・農業経済の振興)

灌漑・治水
への貢献

「東北日報」の漢詩、
俳句撰者として
会津八一との交友

高橋竹之介
誠意塾と長谷川泰

戊辰の役と
高橋竹之介

大河津分水と
高橋竹之介

燕・栗生津の漢学塾
「長善館」と塾出身者

中越各地
の良寛像

「長善館」創立者・鈴木文臺の
幼少期の学才を見出した良寛

江戸時代、長岡藩領内の信濃川の
大氾濫は実に約40回にも及び、
長岡城まで浸水すること7回
～苛烈な洪水と地震災害

「寛政甲子夏」をはじめ、
良寛の、弱者に寄り添う心

新潟の形成史
災害史
治水史
豪農成立史

参考 閔妃暗殺事件 ～ 国家命令とはいえ、衝撃的な内容です。後のメキシコ動乱の大統領家族救出は自己判断。こちらが久萬一の本来の姿なのでしょう。

(1)概要

1894年3月28日、閔氏政権によって開化派の中心人物の金玉均が閔妃の刺客により暗殺された。1894年7月、日本は閔氏政権に内政改革を求めたが、受け入れられず、日清戦争開戦。1895年4月17日、下関条約。1895年10月8日午前三時、日本軍守備隊、領事館警察官、日本人壮士らが 景福宮に突入、騒ぎの中で閔妃は殺害された。

(2)閔妃事件と堀口久萬一

2021年11月、郷里新潟県中通村(現長岡市)の親友で漢学者の武石貞松に送付の、1894年11月17日付から事件直後の95年10月18日付の8通の書簡が見つかり、真実と思われる事実があきらかになった。生前、長城詩抄では、獄中で、病に倒れた妻と残された子への想いを述べている。憂う気持ち、辛い任務は、いかばかりであったか。95年10月9日付の6通目には現地でとった行動が細かく書かれており、王宮に侵入したものうち、「進入は予の担任たり。塀を越え(中略)、漸(ようや)く奥御殿に達し、王妃を弑(しい)し申候(もうしそろう)」(原文はひらがなとカタカナ交じりの旧字体。以下同)と王宮の奥に入り王妃を殺したことや、「存外容易にして、却(かえっ)てあつけに取られ申候」という感想まで述べている。

越後長岡藩の足輕の子として生まれる。彼が3歳の時、戊辰戦争で父は戦死。秀才として知られ、18歳のとき地元長岡の学校で校長となる。上京後、東京帝国大学法科大学に最優秀の成績で入学、在学中の1892年に息子が誕生。

後の詩人堀口大學である。その翌年に卒業した。

1894年、日本初の外交官及領事官試験に合格。外務省領事官補として朝鮮の仁川に赴任中、1895年、閔妃暗殺事件に際して、朝鮮の大院君に日本側から決起を促した廉で停職処分を受ける。

翌1896年に復職するも、外交官としては陽の当たらない道を進むことを余儀なくされた。1898年に公使館三等書記官に任ぜられる。

(3)『閔妃暗殺』の背景とその後

事件の背景には三国干渉によって親露派と結ぶ閔氏が台頭したことに対して、日本が反閔妃の大院君を利用して巻き返しを図ろうとしたことがあげられる。その時の伊藤博文内閣の外相陸奥宗光は病氣療養中で、西園寺公望文相が外相臨時代理を務めていた。西園寺は未曾有の事件に不審を抱き、ただちに小村寿太郎政務局長を現地に派遣した。小村が10月17日に西園寺に出した調査報告は三浦公使が使噤(そそのかす)したものと断じたので、同日、公使を召喚し、

国際的な批判を受けた日本は三浦梧楼らを裁判にかけたが、証拠不十分で無罪となった。朝鮮の金弘集内閣は日本の圧力を受け、事件の解明を行おうとしなかったために民衆の反日感情は強まり、1896年1月、王妃である閔妃の殺害に憤激して「国母復讐」を掲げ、最初の反日武装闘争である義兵闘争が起きる。日本兵を含む政府軍が義兵鎮圧に向かい、首都の防備が手薄になったすきに、親露派はクーデタを起こし、高宗をひそかにロシア公使館に移して金弘集政権を倒して親露派政権を樹立した(2月)。閔妃暗殺事件は結局日本に有利な状況を作り出すことはできず、その後、ロシアはさらに朝鮮への影響力を強め、日本との対立が深刻化して日露戦争へと向かっていく。

補足 骨太の堀口大學

堀口大學さんは、フランス詩の訳詞のほか、素晴らしい漢詩、ほか多くの歌を残しておられますが、なかには「骨太」の詩も。
以下の三つ、文化勲章詩人を超える、本物の巨人であられたと感じます。

(1)「新春 人間に」

長岡市内・長興寺の山本家のお墓の東側、堀口家のお墓の脇に、二段の掲示板が建てられている。下の掲示板が「新春 人間に」。

この詩は、1970年昭和45年に書かれた詩で、翌年正月、福島第一原子力発電所が稼働した年(1971年3月に1号機)の産経1月1日号の特別版用に書かれた詩とのこと。世の中の多くの人が「原子力時代の到来」に浮かれていたときに、です。透徹した眼を、持っておられました。

「新春 人間に」

分かち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ
人間よ

君は原子炉に
太陽を飼いならした
君は見た 月の裏側
表面には降り立った
石までも持って帰った

君は科学の手で
神を殺すことが出来た
おかげで君が頼れるのは
君以外になくなった

君はいま立っている
二〇〇万年の進化の先端
宇宙の断崖に
君はいま立っている
存亡の岐れ目に

原爆をふところに
滅亡の怖れにわななきながら
信じられない自分自身に
おそれわななきながら...

人間よ
分かち合え
譲り合え
そして武器を捨てよ

いまがその決意の時だ

堀口大學

(2)ふるさと雪国の人々へ

越による雪の深さか
越びとの哀れの深さ

作成年 不詳

雪国の人々の辛さを、詠んでくれました。
ここまで、深く詠んでくれたことに、感謝の想いです。

(3)「現代史」 昭和32刊 堀口大學

開戦に陛下は反対あそばした
それでも戦は始まった
月ごとの八日 八日に集まって
日の丸立てて読みあげた
あの大詔は嘘だった

開戦に陛下は反対あそばした
それでも戦は始まった
若者は銃を担って出征って行った（でていった）
しこのみたてと気負い立ち
月ごとの八日 八日に集まって
日の丸立てて読みあげた
大詔のままに死んでった

大べら棒のとんちきの
将軍どもがでちあげた
大嘘つきのみことのり
御名御璽とは名ばかりの
あの開戦のみことのり

軍国日本三軍の
絶対無二の大元帥
陛下は反戦主義だった
千万人が傷ついた
百万人が帰らない
嘘のようだが本当です

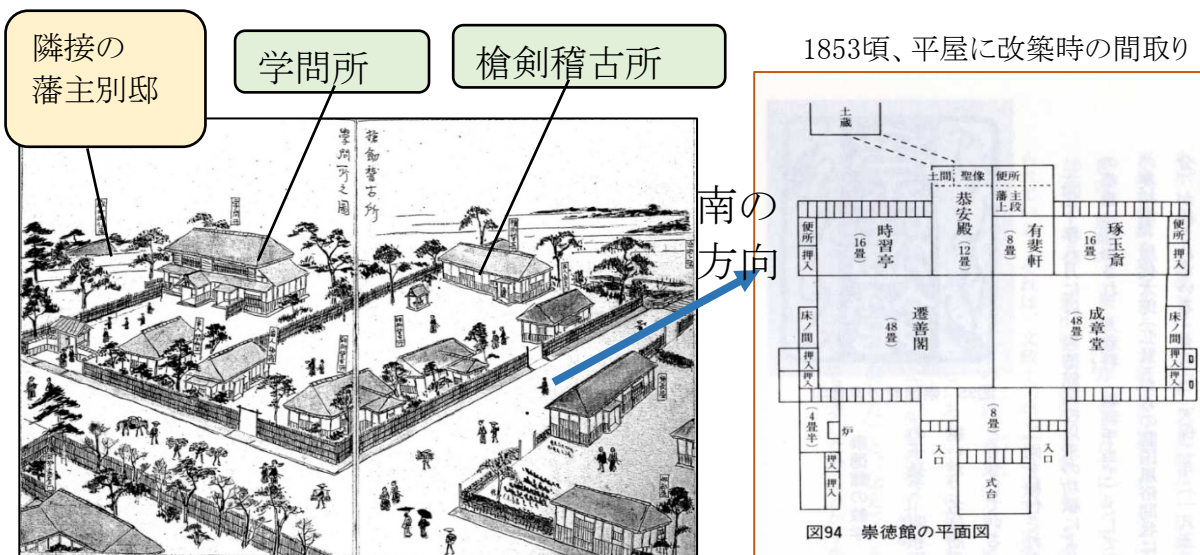
「長岡文芸」に掲載前にされる前に廃刊となったため、未掲載原稿となったとのことです。（長岡市立図書館）
ここまで昭和天皇を擁護し、愚かな軍部を諫めた詩を、知りません。

藩校崇徳館、藩主殿町別邸、明治の漢学塾誠意塾

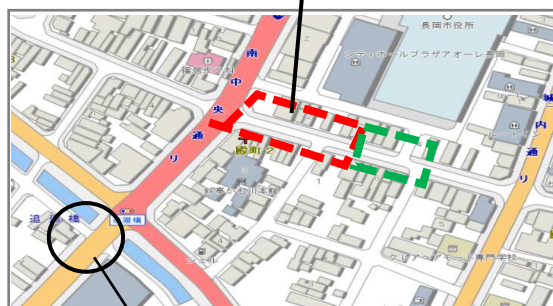
(1) 藩校崇徳館と万国公法

1808 (文化5)年、藩主別邸に近い千手口御門の正面追廻し角に開校。学問所は当初 二階建て茅葺116坪で古義学は一階、古文辞学は二階。

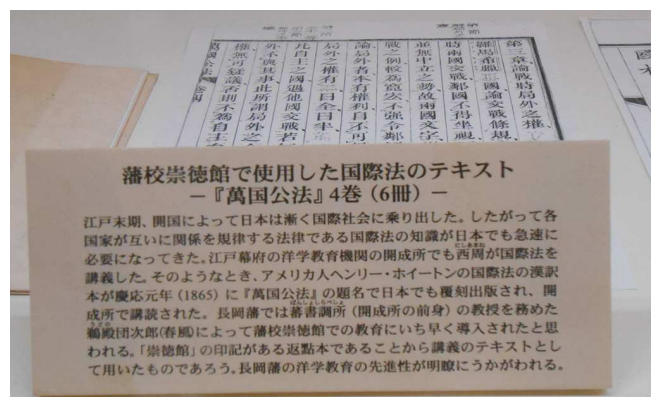
(長岡市史 通史編上巻 p610,611)



藩校、藩主別邸の
予測位置(各、赤と緑)



追廻橋と柿川



(阪之上小学校の伝統館に
展示されています)

エピソード ～

幕末、万国公法(右上)の最新情報が、藩校崇徳館に、もたらされました。ヘンリー・ホイートン著の国際法テキスト(1836)を清滞在の米人宣教師の手で漢訳(1863) (一説に1864/11, 1865/01)。1865年日本で覆刻出版され、それを、すぐさま崇徳館に取り寄せて教えた長岡の先進性。藩書調所の鶴殿団次郎が崇徳館の教材に薦めたと云われています。この国際法の情報が伝わらなかったら、越後長岡藩の「幕末の武装中立」もなかったかも知れないと、勝手に可能性大と推測しています。

(2) 藩主殿町別邸

説明や間取り図は見当たらず、風景として、前頁の藩校の図の隅に見えるのみです。「長岡歴史事典」長岡市2004 には、このあたりに南遥園という藩主屋敷があり、有隣亭という別邸があったことから、町名殿町と称されたとある。九代忠清公が藩校を創設し、1823年に東隣に有隣亭を建て、家老の山本老迂斎・高野余慶・秋山景山らを伴って時々ここで過ごしたという。老中に再任の間の数年間、久々のお国入りの年月、ここに楽しむ時間を持たれたと推察します。崇徳館での「常在戦場」の講義徹底の話も、ここで相談がされたのだろうと勝手に推測しています。

(3) 誠意塾

間取り図は見当たらず、記述のみです。

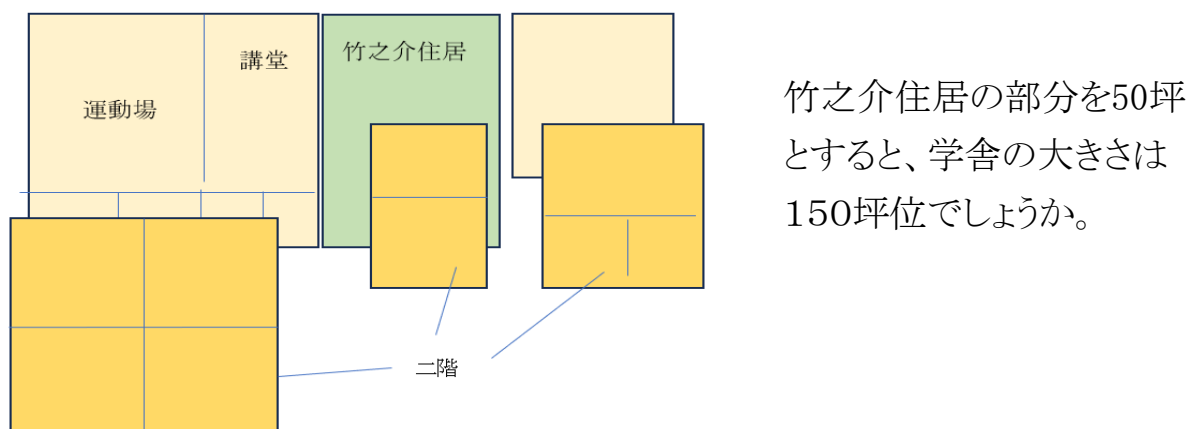
(高橋竹之介関係資料 中之島郷土史研究会編2015)

明治14年、開校当時は竹之介住居の二階に二室。

その後増築、西へ二階に四室、下が講堂と運動場、他三室。

更に東に二階に三室、下一室。東舎、西舎と呼んだ。

想像しますに、こんな雰囲気だったでしょうか。



塾頭の高橋竹之介の元、武石貞松と堀口久萬一がともに学び、先輩学生として頭山満と、後の新潟の大河津分水建設、そして日本の外交、民主化社会運動と、将来に大きく貢献する人々が勢ぞろいした時が、わずか130年ほど前に、まさに、この場所にありました。

地方都市の、こんな小さな塾に、と考えますと感無量です。

高橋竹之介年譜、書

(C)春日正利

("高橋竹之介関連資料", 中之島郷土史研究会編2015 を参考にしました)

- 天保13年1842 杉之森の高橋喜惣左衛門の次男として生まれる。
与板斎藤赤城の塾に学ぶ。
- 文久2年1862 西蒲原郡吉田町粟生津 鈴木文臺の
長善館に入門する。 勤王思想。
- 文久3年1863 7月に杉之森を出発して西国遊学に出る。播州
林田河野鉄兜に入門、森田節斎齋を訪問、讃岐丸亀
の白柳燕石を訪れる。湊川の楠木正成の墓前で
尊皇運動を誓う。
- 慶応2年1866 9月江戸の塩谷宕陰・古賀謹一郎に入門する。
- 慶応3年1867 2月帰郷する。5月同志と仙台へ向かう。米沢で建白書
「草莽建議」を提出。三島郡瓜生村金子清一郎宅で
方議隊(後の居之隊)を組織し方針を決める。9月京都に
入り、五条少納言に拝謁し澤家に仕える。
- 慶応4年1868 1月3日鳥羽伏見の戦いが始まる。澤家の世子使番。
高倉・四条両公が越後鎮撫使の正副総督となる。高倉公に
拝謁し、北越の情勢を陳べて鎮撫使に任命される。
三島郡逆谷の池浦広太郎宅で同志を募る。寺泊・弥彦・高田
と移動する。方議隊(後の居之隊)が糸魚川に集まる。4月27日
京都で五条公、大久保利通、大村益次郎に北越の情勢を説く。
竹之介の作戦が受け入れられる。官軍とともに小千谷・長岡・
新津・新発田・津川・会津に転戦する。11月20日京都で復命し、
褒書・目録を賜る。 越後戦線の参謀代理的役を拝命
「北征日史」に詳しい。
- 明治3年1870 3月東京遷都の反対運動のため収監される。
- 明治12年1879 3月恩赦減刑。三条蔵小路で開塾、火事で杉之森に
帰り、塾を開く。 上京、かつての仲間に失望。
- 明治14年1881 長岡に塾を開く。
- 明治18年1883 長岡殿町に誠意塾を開く。門下生に頭山満、武石貞松、
丸田尚一郎など6百余名に達する。 教育家竹之介
- 明治26年1893 三島億二郎追悼会に長句一編
- 明治29年1896 横田切れの大水害が起こる。
- 明治30年1897 「北越治水策」を山県有朋・松方正義に建白し、
大河津分水の建設に尽力する。
- 明治38年1903 閉塾する。門下生が養老金3千5百円余を贈る。
- 明治42年1909 11月7日68歳で没す。墓は長岡の眞照寺にある。
- 大正7年1918 11月18日正五位を贈位される。「拜恩餘光」刊行する。

高橋竹之介書 「三島億二郎追悼長句一編」～ 長岡市立中央図書館蔵

君不見干戈落、戊辰年當時人情惴惴安伏水一朝轟砲礮
驚破四海太乙眠戰線遠及北越野長城貔貅兵三千中有英
傑參帷幕先生幾人能比肩先鋒指揮妙見口彈丸雨注立
砲煙含枚夜渡八丁鰐祖然畢竟若鞭先百戰歸來無餘念擬
將事業輸微涓學校病院又工場一郡自任能周旋伏波襲繇
老益壯夙拓北海渾沌天瘴癘為虐遂不起銅柱恨不建新連
白雲駕龍仙跡杳空使人、仰前賢痛泣賓客肅無語落花新
緑哭杜鵑
明治廿六年五月念五日於擊石館有故
於靈前云三島先生之追悼會謹賦長句一篇以誌
辱知生高橋三寅拜外

長岡市立図書館蔵

明治26年(1893)5月5日、故三島億二郎(1825-1892)の追悼会での長句。
竹之介は、このとき51才で、十五才年下。 両軍が戦って四半世紀。
戊辰時、竹之介は、億二郎と、いわばライバルでありました。
竹之介の心のうちを聞きたかったですが、きっと、三島億二郎と同じく、
「どちらか負けてもいい。それより、早く決着すべし」と云う気持ちがあったと
思いたい。そして、出獄後の上京で、かつての勤王の友の体たらくを
悲しみ、教育が第一と誠意塾に心血を注いだのではないかと思うのです。
各々、教育に従事した気持ちは一緒だったのでしょ。

金禄公債とは（きんろくこうさい）

wikiをペースにまとめました

明治5年の国立銀行法で、政府は士族に対する給料(家禄)の支給を停止し、代わりに金禄公債証書を発行した。これは、言わば退職金代わりに配られた証書といえるが、直ちに現金化できるわけではなかった。

明治維新の秩禄処分の一環として、禄制の廃止により強制的に禄を廃止したすべての華族・士族に対し、その代償として交付された公債である。数年前に、自主的に禄を返上したものに交付された秩禄公債とは異なる。

総計1億7390万8900円、利子は1割、7分、6分、5分の4種あった。

また利子の受け取り期間は5~14年で、くじで決められたという。

この公債証書を受け取るべき者、つまり禄券を有する者の人数は、34万人にのぼった。起債の年は、1878年(明治11年)であった。

1875年(明治8年)9月、明治政府は米高によって給する禄を、米のく、各地方3箇年の平均相場に換算して貨幣で支給することを始めた(金禄)。ついで1876年(明治9年)、財政の窮乏を補うためにそれまでの禄制を強制的に廃して、金禄公債という国債証券を発行下付し、30年以内に償還することに定め、利子は公債の額面10円以上は7分、100円以上は6分、1000円以上は5分、売買可能な金禄(薩摩藩士族を対象として優遇)に対しては1割とした。毎年抽選により選ばれた対象者から、政府が公債証書を回収し額面の元金を支払うことで償還が行われた。

対象者は、公債記載の利子の受け取り期間内は、毎年利子を受け取った。全ての士族に相当の現金を渡すことが理想的であった。だが政府にはそれだけの資金がなかったため、毎年抽選で一部の対象者に償還することで支出を平準化した。そして公債を売買可能とすることで、償還前の対象者が売却して事業資金に充てることを可能とした。

金禄公債証書を元手に商売を始める士族もいたが、多くは慣れない仕事で失敗した。「士族の商法」と呼ぶこともある。

～ 金禄公債と北海道開拓、長岡復興に対する億二郎の決意・方針は、ほかの奮闘を含め、億二郎の贖罪の気持ちもあったのではないかな。なお、億二郎は、北海道への募集のため、従僕数を数人連れて、冬期の山古志、そして摂田屋を巡回している。